

2013年学術活動業績

I 他誌掲載論文

がん緩和ケア底上げの最前線から

鶴岡市立荘内病院 外科 鈴木 聡
 Medical Tribune；シリーズ地域でのがん医療ボトム
 アップに向けて(10):22,2013

庄内プロジェクトは「からだ館」とともに

緩和ケアサポートセンター 鶴岡・三川
 鶴岡市立荘内病院 外科 鈴木 聡
 からだ館の5年間 そして未来へ 慶應義塾大学先端生
 命科学研究所 「からだ館」がん情報ステーション5周
 年記念誌:12,2013

患者・家族会「ほっと広場」の有用性の評価

鶴岡市立荘内病院 外科 鈴木 聡
 看護部 澁谷美恵、叶野明美
 OPTIM Report 2012エビデンスと提言 厚生労働科学
 研究費補助金 第3次対がん総合戦略研究事業「緩和ケ
 アプログラムによる地域介入研究」班:518-520,2013.3

緩和ケアの普及向上策を探った「庄内プロジェ
 クト」の取り組みと今後の地域緩和ケアのありかた
 を説く 医療羅針盤 私の提言 第68回

鶴岡市立荘内病院 外科 鈴木 聡
 新医療40(9):18-21,2013

寸劇を取り入れた市民啓発法の効果

鶴岡市立荘内病院 看護部 叶野明美、富樫 清
 外科 鈴木 聡
 OPTIM Report 2012 エビデンスと提言 厚生労働科
 学研究費補助金 第3次対がん総合戦略研究事業「緩和
 ケアプログラムによる地域介入研究」班:516-517,2013.3

集中治療センターにおける中心静脈カテーテル関
 連血流感染防止への取り組み

鶴岡市立荘内病院 ICT（感染対策チーム）
 加藤幸子、鈴木 聡、若松由紀子、
 栗田 香、庄司知摩、土屋宏美
 環境感染誌 28(3):154-15,2013

Subcutaneous abscess formation in the upper e
 xtremity caused by toxigenic *Corynebacterium*
ulcerans

Department of Orthopedic Surgery, Tsuruoka
 Municipal Shonai Hospital
 Takaaki Urakawa, Junji Seto,
 Akihiko Yamamoto, Tomoko Nakajima,
 Shinichi Goto
 Journal of Medical Microbiology 62:489-493,2013

橈尺関節障害と橈尺骨遠位端骨折に対する
 Darrach法の治療成績

鶴岡市立荘内病院 整形外科 後藤真一、河内俊太郎
 日本手外科学会雑誌 29:1-5,2013

橈骨遠位端骨折に合併した手根管症候群の検討

鶴岡市立荘内病院 整形外科 後藤真一、河内俊太郎
 日本手外科学会雑誌30:1-4,2013

小児上腕骨外顆骨折骨接合術後の上腕外側骨隆起

鶴岡市立荘内病院 整形外科 後藤真一
 日本肘関節学会雑誌 20:167-169,2013

腎静脈レニンサンプリングにより診断されたAsk-
 Upmark症候群の1例

鶴岡市立荘内病院
 小児科 馬場恵史、林 雅子、星名 潤、
 齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志
 新潟大学医歯学総合病院
 小児科 長谷川博也、山田剛史、唐澤 環、
 金子詩子、鈴木俊明、池住洋平、
 齋藤昭彦
 日本小児高血圧研究会誌10（1）：27-31,2013

当院における小児救急患者の動向—鶴岡市平日夜
 間診療の開始と時間外診療加算料徴収の影響—

鶴岡市立荘内病院 小児科 吉田 宏
 山形県小児科医会会報62：31-33,2013

Epidemic myalgia associated with human parechovirus type 3 infection among adults occurs during an outbreak among children: Findings from Yamagata, Japan, in 2011

Department of Microbiology, Yamagata Prefectural Institute of Public Health

Katsumi Mizuta

Department of Neurology, The Yamagata Prefectural Central Hospital

Tatsushi Yamakawa

Department of Pediatrics, Shonai Hospital

Sueshi Ito, et al

Journal of Clinical Virology 58 : 188-193, 2013

鶴岡市における三歳児健康診査から一過去の5年間（1991～1995年度）と最近の5年間（2007～2011年度）との比較を含め一

第一報：受診者の背景および経年的推移について

鶴岡市立荘内病院

小児科 伊藤末志、堀口 祥、久保暢大、
藤井小弥太、佐藤聖子、佐藤絃一、
庄司圭介、齋藤なか、吉田 宏

鶴岡市健康福祉部健康課

山形県医師会会報744（8月号）：21-28, 2013

鶴岡市における三歳児健康診査から一過去の5年間（1991～1995年度）と最近の5年間（2007～2011年度）との比較を含め一

第二報：出生体重と成長および発達について

鶴岡市立荘内病院

小児科 吉田 宏、堀口 祥、久保暢大、
藤井小弥太、佐藤聖子、佐藤絃一、
庄司圭介、齋藤なか、伊藤末志

鶴岡市健康福祉部健康課

山形県医師会会報 745（9月号）：13-16, 2013

鶴岡市における三歳児健康診査から

第三報：父親の育児および家事への参加率とその背景

鶴岡市立荘内病院

小児科 藤井小弥太、堀口 祥、久保暢大、
佐藤聖子、佐藤絃一、齋藤なか、
吉田 宏、伊藤末志

鶴岡市健康福祉部健康課

山形県医師会会報 746（10月号）：16-20, 2013

鶴岡市における三歳児健康診査から一過去の5年間（1991～1995年度）と最近の5年間（2007～2011年度）との比較を含め一

第四報：齲歯罹患の背景および危険因子

鶴岡市立荘内病院

小児科 久保暢大、堀口 祥、藤井小弥太、
佐藤聖子、佐藤絃一、齋藤なか、
吉田 宏、伊藤末志

鶴岡市健康福祉部健康課

山形県医師会会報 747（11月号）：23-27, 2013

鶴岡市における三歳児健康診査から一過去の5年間（1991～1995年度）と最近の5年間（2007～2011年度）との比較を含め一

第五報：幼児肥満の背景および危険因子

鶴岡市立荘内病院

小児科 佐藤絃一、堀口 祥、久保暢大、
新井 啓、佐藤聖子、庄司圭介、
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

鶴岡市健康福祉部健康課

山形県医師会会報 748（12月号）：18-24, 2013

Detection of subsequent cervical lymph node metastasis in a patient with gingival carcinoma using computed tomography perfusion with a single-compartment kinetic model.

Department of Tissue Regeneration and Reconstruction, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences

Takafumi Hayashi, Ray Tanaka
et al

Niigata University Gender Equality Office

Harumi Hayashi

Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Tsuruoka Municipal Shonai Hospital

Etsuro Takeishi

Katsuhiko Honma

Oral Radiol 30(2):186-191, 2014

(Published online: 24 September 2013)

下顎骨に発生した単発性周辺性骨腫の2例

大原綜合病院 歯科口腔外科 佐藤栄需

福島県立医科大学医学部

歯科口腔外科 長谷川博、土屋令雄、

金子哲治 他

鶴岡市立荘内病院 歯科口腔外科 武石越郎

日口外誌 59(12):765-769, 2013

Ⅱ 学 会 発 表

〔外 科〕

下部消化管癌手術後に発症したクロストリジウム・ デフィシル関連腸炎症例の検討

鶴岡市立荘内病院

外 科 岡部康之、鈴木 聡、二瓶幸栄
羽入隆晃、八木 寛、三科 武

小児外科 大滝雅博

第49回日本腹部救急医学会（2013年3月14日）福岡市

下部消化管癌手術後に発症したクロストリジウム・ デフィシル関連腸炎症例の検討

鶴岡市立荘内病院

外 科 岡部康之、鈴木 聡、二瓶幸栄、
田中 亮、島田哲也、升井大介、
稲毛雄一、三科 武

小児外科 大滝雅博

第275回新潟外科集談会（2013年5月11日）新潟市

院内医療チーム間の連携活性化への挑戦

鶴岡市立荘内病院 外 科 鈴木 聡

第15回日本医療マネジメント学会

（2013年6月14日）盛岡市

腓体尾部腫瘍の1切除例

鶴岡市立荘内病院

外 科 稲毛雄一、二瓶幸栄、渡邊大介、
岡部康之、升井大介、島田哲也、
田中 亮、鈴木 聡

小児外科 大滝雅博

第1回日本臨床外科学会山形県支部会

（第31回山形外科談話会）（2013年6月22日）山形市

保存的治療にて治癒した胆石イレウスの1例

鶴岡市立荘内病院

外 科 稲毛雄一、二瓶幸栄、岡部康之、
升井大介、島田哲也、田中 亮、
鈴木 聡

小児外科 大滝雅博

第75回日本臨床外科学会（2013年11月23日）名古屋市

単孔式腹腔鏡下盲腸切除術を行った虫垂子宮内膜 症の一例

鶴岡市立荘内病院

外 科 岡部康之、二瓶幸栄、鈴木 聡、
大滝雅博、田中 亮、島田哲也、
升井大介、稲毛雄一、渡邊大介、
三科 武

第26回日本内視鏡外科学会（2013年11月30日）福岡市

選定療養費の導入による時間外救急軽症患者受診 の抑制

鶴岡市立荘内病院

外 科 三科 武、鈴木 聡、二瓶幸栄、
坂本 薫

小児外科 大滝雅博

第276回新潟外科集談会（2013年12月7日）新潟市

〔I C T〕

当院の血液培養検査の現状と2セット採取の有用 性

鶴岡市立荘内病院

I C T 大塚隼人、中嶋知子、若松由紀子、
草島宏平、石橋史織、庄司敦子、
土屋宏美、加藤幸子、佐藤さおり、
栗田 香、大島幸子、吉田幸恵、
鈴木 聡

第12回山形県インフェクションコントロール研究会

（2013年9月28日）山形市

〔小 児 外 科〕

小児Upside down型食道裂孔ヘルニアに対する腹 腔鏡下修復術の1例

鶴岡市立荘内病院

小児外科 大滝雅博

外科 二瓶幸栄、鈴木 聡、三科 武

第50回日本小児外科学会総会

(2013年5月30-6月1日) 東京都

小児Upside down stomach型食道裂孔ヘルニア
に対する腹腔鏡下修復術について

鶴岡市立荘内病院

小児外科 大滝雅博

外科 二瓶幸栄、鈴木 聡、三科 武

第23回新潟内視鏡外科研究会

(2013年7月13日) 新潟市

Upside down stomach型を呈した小児食道裂孔
ヘルニアに対する緊急腹腔鏡下修復術の1例

鶴岡市立荘内病院

小児外科 大滝雅博

外科 渡邊大介、稲毛雄一、岡部康之、

升井大介、島田哲也、田中 亮、

二瓶幸栄、鈴木 聡、三科 武

第17回山形内視鏡外科研究会

(2013年8月31日) 山形市

小児穿孔性十二指腸球部潰瘍に対する腹腔鏡下大
網充填術の1経験例

鶴岡市立荘内病院

小児外科 大滝雅博

外科 升井大介、二瓶幸栄、鈴木 聡、

三科 武

第33回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会

(2013年10月24-25日) 東京都

臍皮膚余剰を有する臍ヘルニアに対するサイロ型
皮弁形成術の検討

鶴岡市立荘内病院

外科 升井大介、二瓶幸栄、鈴木 聡、

三科 武、

小児外科 大滝雅博

第33回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会

(2013年10月24-25日) 東京都

〔整形外科〕

小児上腕骨外顆骨折骨接合術後の上腕外側骨隆起

鶴岡市立荘内病院 整形外科 後藤真一、河内俊太郎

第25回日本肘関節学会 (2013年2月9日) 東京都

膝蓋骨下極骨折に対するpull out法の治療経験

鶴岡市立荘内病院

整形外科 村岡 治、日向野行正、後藤真一

浦川貴朗、河内俊太郎、藤川隆太、

鈴木一瑛、澁谷洋平

第213回新潟整形外科研究会

(2013年3月16日) 長岡市

橈骨遠位端骨折に合併した手根管症候群の検討

鶴岡市立荘内病院

整形外科 後藤真一、河内俊太郎

第56回日本手外科学会 (2013年4月19日) 神戸市

非定型大腿骨骨折と大腿骨彎曲の関連

鶴岡市立荘内病院

整形外科 鈴木一瑛、後藤真一、日向野行正、

河内俊太郎、浦川貴朗、望月友晴、

藤川隆太、村岡治、澁谷洋平

第110回東北整形災害外科学会

(2013年6月7日) 山形市

鏡視下腱板修復術の術後短期成績

鶴岡市立荘内病院

整形外科 望月友晴、

済生会新潟第二病院 整形外科 塩崎浩之

第35回庄内整形外科医会 (2013年6月29日) 鶴岡市

腰椎変性疾患L5神経根症の歩行能力における中殿
筋筋力の重要性

鶴岡市立荘内病院

整形外科 庄司寛和、後藤真一、浦川貴朗、

河内俊太郎 望月友晴、村岡治、

細野泰照、捧 陽介

第36回庄内整形外科医会

(2013年11月30日) 酒田市

〔形成外科〕

術後6年半後に所属リンパ節に再発した悪性黒色腫

鶴岡市立荘内病院
形成外科 小住奈津子、工藤勝秀
庄内皮膚医会第100回例会（2013年3月6日）鶴岡市

右大腿部皮下腫瘍として紹介となった1例

鶴岡市立荘内病院
形成外科 工藤勝秀、小住奈津子
庄内皮膚医会第100回例会（2013年3月6日）鶴岡市

未治療2型糖尿病患者に発症した胸骨骨髄炎の1例

鶴岡市立荘内病院
形成外科 小住奈津子、工藤勝秀
第56回 日本形成外科学会総会
（2013年4月3日～5日）東京都

〔小児科〕

小児感染症における抗微生物薬の適正使用について

鶴岡市立荘内病院 小児科 楡井 淳
インфекション・コントロール活動報告会
（2013年1月31日）荘内病院講堂

GCM2遺伝子変異を同定した特発性副甲状腺機能低下症の1例

鶴岡市立荘内病院
小児科 藤井小弥太、久保暢大、仁藤美子、
田中雅人、楡井 淳、星名 潤、
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志
新潟大学
小児科 長崎啓祐
慶應義塾大学医学部
小児科 三井俊賢、長谷川奉延
第213回日本小児科学会新潟地方会
（2013年5月11日）新潟市

ムンプスウイルスの垂直感染と考えられる間質性肺炎を発症した新生児例

鶴岡市立荘内病院
小児科 久保暢大、仁藤美子、田中雅人、
藤井小弥太、楡井 淳、星名潤、
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

国立成育医療研究センター

呼吸器科 川崎一輝

新潟大学医歯学総合病院

小児科 齋藤昭彦

第213回日本小児科学会新潟地方会

（2013年5月11日）新潟市

当院における小児救急患者の動向～鶴岡市平日夜間診療の開始と時間外加算料徴収の影響～

鶴岡市立荘内病院

小児科 吉田 宏、堀口 祥、久保暢大、
藤井小弥太、佐藤紘一、佐藤聖子、
庄司圭介、齋藤なか、伊藤末志

第94回日本小児科学会山形地方会

（2013年5月12日）山形市

低酸素性虚血性脳症の病態把握にaEEGを使用した新生児例

鶴岡市立荘内病院

小児科 久保暢大、堀口 祥、藤井小太、
佐藤聖子、佐藤紘一、庄司圭介、
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

第30回山形県周産期・新生児医療研究会

（2013年6月22日）山形市

T市における過去5年間の三歳児健康診査から—父親の家事・育児参加率とその背景—

鶴岡市立荘内病院

小児科 藤井小弥太、伊藤末志、吉田 宏、
齋藤なか、久保暢大

第60回日本小児保健協会学術集会

（2013年9月26日～28日）東京都

**T市における三歳児健康診査から
一齶歯罹患の背景および危険因子—**

鶴岡市立荘内病院

小児科 久保暢大、藤井小弥太、齋藤なか、
吉田 宏、伊藤末志

第60回日本小児保健協会学術集会

(2013年9月26日—28日) 東京都

ムンプスウイルスの母子感染

鶴岡市立荘内病院

小児科 久保暢大、堀口 祥、新井 啓、
佐藤紘一、佐藤聖子、庄司圭介、
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

第30回庄内周産期懇話会 (2013年10月18日) 酒田市

ムンプスウイルスの母子感染

鶴岡市立荘内病院

小児科 久保暢大、仁藤美子、田中雅人、
藤井小弥太、楡井 淳、星名 潤、
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

国立成育医療研究センター

呼吸器科 川崎一輝

新潟大学医歯学総合病院

小児科 大石智洋、齋藤昭彦

第45回日本小児感染症学会学術集会

(2013年10月26日—27日) 札幌市

**鶴岡市の幼児肥満予防教室（元キッズ）受講児
の背景およびその後の経過について**

鶴岡市立荘内病院

小児科 佐藤聖子、堀口 祥、久保暢大、
藤井小弥太、佐藤紘一、庄司圭介、
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

鶴岡市健康福祉部健康課

第48回山形県小児保健会研修会

(2013年11月2日) 山形市

抗NMDA受容体脳炎の1例

鶴岡市立荘内病院 小児科 齋藤なか

庄内小児科医会

(2013年11月6日) 酒田市

**当院における小児救急患者の動向—鶴岡市平日夜
間診療所の開始と時間外診療加算料徴収の影響—**

鶴岡市立荘内病院

小児科 堀口 祥、久保暢大、佐藤聖子、
佐藤紘一、庄司圭介、齋藤なか、
吉田 宏、伊藤末志

第32回庄内医師集談会

(2013年11月17日) 鶴岡市

**異常行動を初発症状とした抗NMDA受容体脳炎
の1例**

鶴岡市立荘内病院

小児科 久保暢大、堀口 祥、佐藤聖子、
佐藤紘一、庄司圭介、齋藤なか、
吉田 宏、伊藤末志

第32回庄内医師集談会

(2013年11月17日) 鶴岡市

**妊娠中母体にアンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬が
投与され、胎児発育不全、低血圧、腎不全を呈し
た1例**

鶴岡市立荘内病院

小児科 庄司圭介

埼玉医科大学総合医療センター

総合周産期母子医療センター 小川 亮、

本島由紀子、齋藤 綾、桑田聖子、

須藤 陽、川崎秀徳、伊藤加奈子、

金井雅代、石黒秋生、星 順、

側島久典、田村正徳

第58回日本未熟児新生児学会

(2013年11月30日) 金沢市

**三歳児健康診査における「極端に落ち着かず、注
意集中ができない」児の割合とその背景**

鶴岡市立荘内病院

小児科 新井 啓、堀口 祥、久保暢大、
佐藤聖子、佐藤紘一、庄司圭介、
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

鶴岡市健康福祉部健康課

第95回日本小児科学会山形地方会

(2013年12月8日) 山形市

当地における幼児肥満の背景と危険因子について—
過去の5年間と最近の5年間の三歳児健康診査から—

鶴岡市立荘内病院

小児科 佐藤絃一、堀口 祥、久保暢大、
新井 啓、佐藤聖子、庄司圭介、
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

鶴岡市健康福祉部健康課

第95回日本小児科学会山形地方会

(2013年12月8日) 山形市

情動脱力発作を伴わないナルコレプシーの1例

鶴岡市立荘内病院

小児科 堀口 祥、久保暢大、新井 啓、
佐藤聖子、佐藤絃一、庄司圭介、
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

秋田大学大学院精神科学講座 神林 崇

第215回日本小児科学会新潟地方会

(2013年12月14日) 新潟市

リドカインテープが有効であった新生児期発症て
んかんの1例

鶴岡市立荘内病院

小児科 庄司圭介、齋藤なか、堀口 祥、
久保暢大、藤井小弥太、新井 啓、
佐藤聖子、佐藤絃一、齋藤なか、
吉田 宏、伊藤末志

第215回日本小児科学会新潟地方会

(2013年12月14日) 新潟市

〔病 理 科〕

後腹膜腫瘍として発見されたALK陽性未分化大細
胞型リンパ腫

鶴岡市立荘内病院 病理科 鈴木俊市

第52回日本臨床細胞学会秋期大会

(2013年11月2日-3日) 大阪市

〔歯科口腔外科〕

オトガイ部に長期間残存した金属片の1例

鶴岡市立荘内病院

歯科口腔外科 武石越郎、本間克彦、塙 健志

第67回日本口腔科学会学術集会

(2013年5月23-24日) 宇都宮市

〔中央検査科〕

当院での血液培養検査の現状と2セット採取の有
用性

鶴岡市立荘内病院 中央検査科 大塚隼人

第12回山形県インフェクションコントロール研究会

(2013年9月28日) 山形市

全自動キャピラリーminicapの基礎的検討

～特に検出感度と特異な分画パターンについて～

鶴岡市立荘内病院 中央検査科 秋葉彩楓

当院の尿沈渣検査における異型細胞の検出状況

～尿細胞診との比較検討～

鶴岡市立荘内病院 中央検査科 大塚隼人

第2回日臨技北日本支部医学検査学会

(2013年10月12-13日) 仙台市

乳癌二次検診施設としての当院乳腺超音波検査の
役割

鶴岡市立荘内病院 中央検査科 大滝歩美

当院におけるBIVRの検出状況

鶴岡市立荘内病院 中央検査科 安在冬虹

第34回山形県医学検査学会

(2013年11月2-3日) 天童市

〔薬 局〕

南庄内におけるスムーズながん治療を目指した薬
薬連携の取り組み

鶴岡市立荘内病院

薬 局 草島宏平、石川大介、阿部和人、

佐藤 導

内 科 和泉典子

第59回山形県薬学大会

(2013年3月3日) 山形市

当院集中治療センターにおける薬剤師業務の現状
と課題

鶴岡市立荘内病院 薬 局 田中大輔、

第16回日本臨床救急医学会総会学術集会

(2013年7月12日-13日) 東京都

持ち込み褥瘡の入院前後の処置の調査と今後の課題

鶴岡市立荘内病院

富樫敦子、梅本貴子、百瀬 幸、
小住奈津子、工藤勝秀

第15回日本褥瘡学会学術集会

(2013年7月19日-20日) 神戸市

外来患者に対するオピオイド新規導入時の服薬指導と調剤薬局への情報提供の取り組み

鶴岡市立荘内病院

阿部和人、石川大介、和泉典子、鈴木 聡

第7回日本緩和医療薬学会年会

(2013年9月15日-16日) 千葉市

当院におけるベンダムスチンの治療状況

鶴岡市立荘内病院

薬 局 石川大介、田中大輔、阿部和人、
鎌田敬志、 佐藤 導

第23回日本医療薬学会年会

(2013年9月21日-22日) 仙台市

当院集中治療センターにおける薬剤師業務の現状

鶴岡市立荘内病院

薬 局 田中大輔、鎌田敬志、庄司知摩、
佐藤 導

第23回日本医療薬学会年会

(2013年9月21日-22日) 仙台市

回収した血糖測定器および穿刺器具から見る今後の患者指導

鶴岡市立荘内病院 薬 局 鎌田敬志

第2回日本くすりと糖尿病学会学術集会

(2013年11月23日-24日) 東京都

〔リハビリテーションセンター〕

急性心筋梗塞地域連携パスの導入に向けて

鶴岡市立荘内病院

リハビリテーションセンター 渡部美穂

第14回日本クリニカルパス学会学術集会

(2013年11月1日) 盛岡市

〔栄 養 科〕

胃癌周期期における安静時代謝量と栄養状態

鶴岡市立荘内病院

栄 養 科 富樫博子

薬 局 田中大輔

中央検査科 鈴木貴志

看護部 石井 佳

外 科 二瓶幸栄、鈴木 聡

東京医療保健大学大学院 下田 妙子

第29回日本静脈経腸栄養学会

(2014年2月27日) 横浜市

〔看 護 部〕

インシデント再発予防活動への再考

集中治療センター 松浦さと子

手術センターにおける間接介助者のゴーグル装着の取り組み

手術センター 飯田 愛

入院棟看護師に対する訪問看護師同行研修の効果

地域医療連携室 富樫 清

褥瘡予防・管理の在宅に向けた支援と課題

7階東入院棟 中村紀菜

ローズウッドオイルを使用した口腔ケアの一考察

化学療法外来 高橋美恵

がん患者カウンセリング導入後の振り返り

化学療法外来

がん化学療法認定看護師 佐々木孔美

看護師によるNST専従業務の現状

医療安全管理室 NST専門療法士 石井 佳

医療マネジメント学会 山形県支部学術集会

(2013年7月20日) 酒田市

訪問看護師との同行訪問より考える在宅褥瘡の現状と課題

医療安全管理室 皮膚・排泄ケア認定看護師 梅本貴子

日本褥瘡学会

(2013年7月19-20日) 神戸

**集中治療センターにおける中心静脈カテーテル関連
連血流感染防止への取り組み**

集中治療センター ICT委員 加藤幸子
環境感染学会 (2013年2月2日) 福岡

**がん患者遺族への支援のあり方～遺族アンケート
を通して～**

患者の攻撃的な言動に困惑する家族に着目した密
な地域情報共有体制の構築が有効であった一症例

外科外来 緩和ケア認定看護師 釘持朝子
緩和医療学会 (2013年6月2日) 横浜

オストメイト支援のための地域連携の報告

医療安全管理室 皮膚・排泄ケア認定看護師 梅本貴子
第22回日本創傷・オストミー・失禁管理学会
(2013年5月24-25日) 静岡

Ⅲ 院 外 講 演

〔外 科〕

がん緩和戦略研究OPTIMプロジェクトが地域にもたらしたもの

鶴岡市立荘内病院 外科 鈴木 聡
第12回関西がんチーム医療研究会教育講演
(2013年3月9日)

がん終末期患者のからだと心のケア

鶴岡市立荘内病院 外科 鈴木 聡
新潟青陵大学特別講義
看護学科、福祉心理学科4年生対象
(2013年5月2日)

在宅における緩和ケアグループ討論

鶴岡市立荘内病院 外科 鈴木 聡
平成25年度第3回山形県緩和ケア研修会
(2013年7月14-15日)

鶴岡地区の乳がん検診について

鶴岡市立荘内病院 外科 鈴木 聡
やまがたピンクリボン プレ・フェスタ2013 in つるおか
(2013年7月28日)

がん治療と緩和ケアーがん緩和ケア研究OPTIMプロジェクトが地域にもたらしたものー

鶴岡市立荘内病院 外科 鈴木 聡
柏崎市医師会講演会 (2013年8月30日)

庄内プロジェクト紹介

鶴岡市立荘内病院
緩和ケアサポートセンター鶴岡・三川
外科 鈴木 聡
第7回緩和ケア市民公開講座 庄内プロジェクト
～地域で支える緩和ケア～命はそんなにやわじゃない
(2013年11月16日)

こんなに効くの!?抗がん剤

～化学療法著効例と最近の乳がん治療～
鶴岡市立荘内病院 外科 鈴木 聡
平成25年度鶴岡地区薬剤師会
第3回生涯学習研修部研修会 (2013年11月27日)

がん緩和ケアOPTIMプロジェクトが地域にもたらした変化

鶴岡市立荘内病院 外科 鈴木 聡
第23回愛知県三河緩和医療研究会 (2013年11月30日)

〔小 児 科〕

小児肥満の害について①

鶴岡市立荘内病院 小児科 伊藤末志
鶴岡市元気キッズ教室 (2013年3月7日)

子どもの急病時の対応について

鶴岡市立荘内病院 小児科 伊藤末志
小児救急医療講習会in由良保育園 (2013年5月30日)

小児肥満の害について②

鶴岡市立荘内病院 小児科 伊藤末志
鶴岡市元気キッズ教室 (2013年6月20日)

当院救急センターを受診したクラゲ刺傷例について

鶴岡市立荘内病院 小児科 伊藤末志
加茂水族館クラゲマイスター養成講座
(2013年7月13日)

小児肥満の害について③

鶴岡市立荘内病院 小児科 伊藤末志
鶴岡市元気キッズ教室 (2013年9月5日)

子どもの急病時の対応について

鶴岡市立荘内病院 小児科 齋藤なか
小児救急医療講習会in新形保育園 (2013年9月11日)

小児生活習慣病

鶴岡市立荘内病院 小児科 伊藤末志
山形大学医学部特別講義 (2013年9月12日)

子どもの急病時の対応について

鶴岡市立荘内病院 小児科 佐藤紘一
小児救急医療講習会in三川幼稚園 (2013年10月17日)

子どもの急病時の対応について

鶴岡市立荘内病院 小児科 伊藤末志
小児救急医療講習会in東部保育園 (2013年10月30日)

中学生男児にるい瘦児の割合が増えている 一起立性調節障害 (OD) との関連性についての 検討一

鶴岡市立荘内病院 小児科 伊藤末志
(平成24年度山形県小児保健会委託研究)
平成25年度山形県小児保健会総会・第48回山形県小児
保健会研修会 (2013年11月2日)

子どもの発達と健康について

鶴岡市立荘内病院 小児科 伊藤末志
鶴岡市子育て勉強会 (2013年11月21日)

小児肥満の害について④

鶴岡市立荘内病院 小児科 伊藤末志
鶴岡市元気キッズ教室 (2013年12月19日)

[歯科口腔外科]

過去10年間における荘内病院歯科口腔外科紹介患 者の動向について

鶴岡市立荘内病院
歯科口腔外科 埴 健志、武石越郎, 本間克彦
平成24年度第2回鶴岡地区歯科医師会学術講演会
(2013年3月12日)

悪性腫瘍治療における超選択的動注法の概要と実 際について

鶴岡市立荘内病院 歯科口腔外科 武石越郎
平成24年度第2回鶴岡地区歯科医師会学術講演会
(2013年3月12日)

当科における口腔癌治療の概要と実際について

鶴岡市立荘内病院 歯科口腔外科 武石越郎
平成25年度地域医療連携推進協議会・鶴岡地区医師会・
荘内病院合同懇談会 (2013年12月17日)

[薬 局]

ワンタッチウルトラビュー・ワンタッチペン導入 時アンケート調査

鶴岡市立荘内病院 薬 局 鎌田敬志
第4回庄内薬剤師糖尿病講演会 (2013年6月29日)

病棟薬剤師業務におけるプレアボイド報告の重要性

鶴岡市立荘内病院 薬 局 庄司知摩
第52回山形県病院薬剤師会研修会 (2013年5月12日)

当院白内障術後患者への薬剤師の関わり

鶴岡市立荘内病院 薬 局 石川大介
第3回つるやくネットワーク学習会 (2013年3月8日)

抗がん剤治療について～基本的なことを中心に～

鶴岡市立荘内病院 薬 局 阿部和人
第1回鶴岡地区薬剤師会生涯学習部会研修会
(2013年5月21日)

薬薬連携推進のために必要な病院薬剤師の役割

鶴岡市立荘内病院 薬 局 阿部和人
第2回新庄最上臨床緩和ケア研修会 (2013年3月14日)

当院の管理加算業務の課題

鶴岡市立荘内病院 薬 局 田中大輔
平成24年度庄内ブロック研修会 (2013年1月8日)

IV 院内各種研修会

〔整形外科〕

病院探検隊「どんなお仕事があるのかな」

鶴岡市立荘内病院 整形外科 村岡 治

(2013年7月30日)

〔小児科〕

第八十二回荘内病院小児科病診連携研究会

日時：2013年1月24日

場所：荘内病院三階講堂

内容：

1) 平成24年10月から同年12月までの紹介患者経過報告 田中雅人

2) トピックス

a) zoster sine herpetteに伴う顔面神経麻痺の1例 藤井小弥太

b) ステロイドパルス療法で軽快した急性散在性脳脊髄炎 (ADEM) の1例 久保暢大

c) ムンプスウィルスの胎内感染により肺炎を発症したと考えられる1新生児例

仁藤美子

d) レベチラセタムが著効したミオクロニー失立発作てんかんの1例

齋藤なか

e) 鶴岡市における三歳児健康診査から一三歳児の現状と15年前との比較を含めて一

伊藤末志

<追加>最近の感染症流行状況

伊藤末志

3) 最近の抄読会から

星名 潤

第八十三回荘内病院小児科病診連携研究会

日時：2013年4月24日

場所：荘内病院三階講堂

内容：

1) 平成25年1月から同年3月までの紹介患者経過報告 久保暢大

2) トピックス

a) 一般外来において発熱児の咽頭ぬぐい液から培養分離されたCMVの意義

堀口 祥

b) GCM2遺伝子変異を同定した特異性副甲状腺機能低下症の1例 藤井小弥太

c) 年長児における熱性けいれんの検討

齋藤なか

d) 当院における小児救急患者の動向

～鶴岡市平日夜間診療の開始と時間外診療加算料徴収の影響～

吉田 宏

<追加>感染症流行状況

伊藤末志

3) 最近の抄読会から

齋藤なか

第八十四回荘内病院小児科病診連携研究会

日時：2013年7月24日

場所：荘内病院三階講堂

内容：

1) 平成25年4月から同年6月までの紹介患者経過報告 藤井小弥太

2) トピックス

a) 生検を行った頸部リンパ節腫脹の1例

佐藤聖子

b) デスマプレシン製剤経口薬に切り替えを試みた中枢性尿崩症の1例 堀口 祥

c) 低酸素性虚血性脳症の病態把握にaEEGを使用した新生児例 久保暢大

d) NicoletOneを用いて発作時脳波を補足し得た乳児てんかんの1例

齋藤なか

e) 幼児肥満の背景および危険因子について

伊藤末志

<追加>マダニのとり方

伊藤末志

3) 最近の抄読会から

佐藤 紘一

第八十五回荘内病院小児科病診連携研究会

日時：2013年10月23日

場所：荘内病院三階講堂

内容：

- 1) 平成25年7月から同年9月までの紹介患者経過報告
新井 啓
- 2) トピックス
 - a) 乳房腫脹を契機に発見された副腎腫瘍の1男児例
佐藤聖子
 - b) 最近経験した睡眠障害が疑われた3例
堀口 祥
 - c) 鶴岡市三歳児健康診査から
－齲歯罹患の背景および危険因子－
久保暢大
 - d) 鶴岡市における過去5年間の三歳児健康診査から
－父親の家事・育児参加率とその背景－
吉田 宏
- 3) 最近の抄読会から
佐藤絃一

〔中央検査科〕

第2回「医療安全研修会」

医療安全管理者養成講習会を受講して

和嶋 淳

迅速かつ信頼性のあるデータ報告！

伊藤奈穂

(2013年2月21日)

中央検査科、病理科勉強会

「病理技術学」

鈴木俊市

(2013年1月17日)

「四肢動脈圧検査」

大滝歩美

(2013年2月28日)

「血算の基礎」

大塚隼人

(2013年3月27日)

「化学検査」

秋葉彩楓

(2013年5月21日)

「細菌検査の流れ」

安在冬虹

(2013年6月25日)

「LAMP法について」

栄研化学

(2013年7月9日)

「術中迅速検査」

諏訪晋一

(2013年9月11日)

「学会発表演習」

大塚隼人、秋葉彩楓、

大滝歩美、安在冬虹

(2013年10月10日)

「生理検査」

石川ひとみ

(2013年11月27日)

「輸血」

佐藤浩太郎

(2013年12月25日)

〔薬 局〕

注意すべき薬剤等について

佐藤 導、鎌田 敬志、富樫 敦子

平成25年度看護部新採用者研修会

(2013年4月8日) 講堂

CD関連下痢症の治療について

土屋 宏美

(2013年9月9日) 講堂

医局会

医療安全情報の解説（日本医療機能評価機構の医療事故情報収集等事業より）、手術等で中止を考慮する薬剤について、麻薬の取扱いについて

佐藤 導

平成25年度医薬品安全研修会（2013年11月1日、7日）

薬局 抄読・勉強会

2013年1月16日

Topical 0.5% Ivermectin Lotion for Treatment of Head Lice

(N Engl J Med 2012 ; 367 : 1687-1693)

鎌田 敬志

2013年 2月13日

Fracture Risk and Zoledronic Acid Therapy in Men with Osteoporosis

(N Engl J Med 2012 ; 367 : 1714-1723)

清野 由利

2013年 3月19日

A Meta-Analysis of the Efficacy of Donepezil, Rivastigmine, Galantamine, and Memantine in Relation to Severity of Alzheimer's Disease.

(J Alzheimers Dis. 2013. Feb 14.)

五十嵐昌美

2013年 4月10日

Neuropsychological performance in survivors of breast cancer more than 20 years after adjuvant chemotherapy.

(J Clin oncol. 2012 Apr 1; 30(10):1080-6.)

阿部 和人

2013年 5月 8日

Pharmacokinetics of Levetiracetam during Pregnancy, Delivery, in the Neonatal Period, and Lactation

(Epilepsia, 48(6); 1111-1116. 2007)

富樫 敦子

2013年 6月19日

12-h pretreatment with methylprednisolone versus placebo for prevention of postextubation laryngeal oedema: a randomised double-blind trial

(Lancet 2007; 369: 1083-1089)

田中 大輔

2013年 7月17日

(1,3)- β -D-glucan as a prognostic marker of treatment response in invasive candidiasis.

(Clin Infect Dis 2012 Aug; 55(4): 521-6)

土屋 宏美

2013年 8月21日

Restoration of auditory evoked responses by human ES-cell-derived otic progenitors

(Nature 2012 doi:10.1038/nature11415)

坂田奈緒美

2013年 9月11日

Multicenter phase II study of bendamustine for relapsed or refractory indolent B-cell non-Hodgkin lymphoma and mantle cell lymphoma

(Cancer Science Volume 101, Issue 9, 2059-2064, september 2010)

石川 大介

2013年 10月 9日

Duodenal Infusion of Donor Feces for Recurrent Clostridium difficile

(N Engl J Med 2013 ; 368 : 407-415)

佐藤 拓也

2013年 11月13日

Use of clopidogrel with or without aspirin in patients taking oral anticoagulant therapy and undergoing percutaneous coronary intervention: an open-label, randomised, controlled trial

(The Lancet 2013 ; 381 : 1107-1115)

大井 直子

2013年 12月11日

Antibiotic prophylaxis for urinary tract infections after removal of urinary catheter : meta-analysis

(BMJ 2013 ; 346 : f3147)

草島 宏平

〔看護部〕

平成25年度看護部研修会

分区	研修コース	期 日	研 修 内 容
必 須 研 修	新採用者研修	4月1日(月)	・病院施設見学
		4月2日(火)	・看護部教育計画と新採用者教育について 講師：教育委員長 高橋 深雪 ・看護部長講話：看護部長 佐藤 さゆり ・講義：「勤務にあたってのオリエンテーション」 講師：看護副部長 河田 夏子 ・講義：「医療事故予防対策について」 講師：外来統括主幹 佐藤 喜恵
		4月3日(水)	・S-HIS 看護システムについて 講義：「外来から入院までの流れ」 講師：看護副部長 佐藤 千鶴子 講義：「看護システム(記録)について」 講師：看護記録委員会 看護係長 金子 弘美 講義：「看護診断・記録の実際について」 講師：看護記録推進・必要度委員会 看護主任 五十嵐 君花 看護師 柴田 真由子 演習：「入院棟での電子カルテ操作練習」 フロア担当：入院棟記録推進・必要度委員 ・講義：「看護必要度について」 講師：看護記録推進・必要度委員会 看護主任 五十嵐 知子 看護師 伊藤 美緒
		4月4日(木)	・採血・注射技術研修 講師：看護業務委員会(手順) 講義：「注射の安全について」 講師：看護係長 若松 順子 講義：「注射の業務マニュアル」 講師：看護主任 佐藤 登志江 講義：「皮下注射・筋肉注射について」 講師：看護係長 渡部 泰恵子 講義：「採血・静脈注射について」 講師：看護主任 後藤 千詠子 講義：「血糖測定について」 講師：看護主任 菅原 美代威 ・採血・皮下・筋肉・静脈注射の実技演習
		4月8日(月)	・講義：「注意すべき薬剤等について」 講師：薬局長 佐藤 導 ・講義：「糖尿病薬について」 講師：薬剤専門員 鎌田 敬志 ・講義：「点滴時間に注意する薬剤について」 講師：主任薬剤師 富樫 敦子 ・講義：「看護師としての倫理とは」 講師：看護倫理委員会委員長 看護主査 五十嵐 利恵
		4月9日(月)	・講義：「医療機器使用時の安全な看護」 講師：外来統括主幹 佐藤 喜恵 ファシリテーター：富樫恭子・牧順・大瀧 志保
		4月12日(金)	・講義：「医療従事者に必要な感染対策の基本」 講師：感染管理認定看護師 看護係長 若松 由紀子

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
必 須 研 修			感染リンクナース 三浦春佳 佐藤 晴子 <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「安全に輸血を行うために ー当院の輸血手順ー」 講師：輸血療法委員 看護主幹 佐藤 順
		4月25日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「食事介助・マウスケアについて」 講師：NST委員会 NST専従看護師 石井 佳 ・講義「当院の地域医療連携及び退院調整について」 講師：地域医療連携室 看護係長 富樫 清 ・講義・実技演習「導尿の仕方の看護援助」 講師：教育委員会 看護主任 難波 裕子
		5月10日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・フリートーク ・講義：「メンタルヘルスケアについて」 講師：県立鶴岡病院 精神科認定看護師 安部 和明氏
		6月26日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・演習：「今の自分を振り返り、表現してみませんか」 講師：教育委員長 高橋深雪 ・グループワーク『自分を認めて、明日からどうしたらよいか』 ・講義：「具体的医療事故防止対策 事例検討」 講師：5階西入院棟 看護係長 牧 順 ・講義：「看護ケアに生かすための感染対策」 講師：感染管理認定看護師 看護係長 若松 由紀子
		6月18日(火)	出張 新人研修Ⅰ 医療安全ー安全な看護を行うための第一歩！ー
		8月28日(水)	出張 新人研修Ⅱ コミュニケーションーみんなで言葉のキャッチボールー
		10月11日(金)	出張 新人研修Ⅲ 救急看護 ー私にもできる！急変時の対応ー
		10月28日(月)	出張 新人研修Ⅳ ファイナル ーキャリアアップへの第一歩ー
		8月26日(月) ～ 11月8日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研修（集中治療センター、手術センター） 1）基本的な看護技術・フィジカルアセスメント等を習得する 2）術後の全身管理・輸液・輸血ポンプ管理 3）急性期における循環器疾患患者の基本的看護 4）急性期における呼吸器疾患患者の基本的看護 5）手術中の全身管理と看護
		9月26日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「公務員としてのあり方や公立病院で働いていくための姿勢」 講師：事務部長 板垣 博
		9月30日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「スキンケアと褥瘡予防」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護主任 梅本 貴子 ・講義：「フィジカルアセスメント」 講師：集中治療センター 集中ケア認定看護師 三浦 良哉
			<ul style="list-style-type: none"> ・2年目ナースメッセージ 6階東入院棟 上野 恵 8階東入院棟 星野 悠太 ・グループワーク 『明日からの看護実践にどう活かしていくか』
		平成26年 2月13日(木)	1年の振り返り研修 <ul style="list-style-type: none"> ・レポート発表
			<ul style="list-style-type: none"> 『担当患者との関わりからの学んだこと、今後の課題』 ・先輩ナースからのメッセージ 3年目ナース：4階東入院棟 牧野 美奈代 中堅 ナース：集中治療センター 前田 圭 リーダーナースⅠ：5階東入院棟 土田 彩 リーダーナースⅡ：7階東入院棟 富樫 千代美 ・グループワーク 『2年目ナースとしての取り組み』

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
必 須 研 修	既卒新採用者	平成26年 2月4日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の飛び級制度についての説明 ・フリートーク『今年度受講した研修についての意見交換』
	新採指導者研修	4月15日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション 新採用者・2年目研修内容・チェックリストの説明 既卒者の研修についてオリエンテーション 講師：教育委員長 高橋 深雪 ・講義：「成人の学習に対する基礎知識」 講師：臨床指導委員会 看護主任 菅原 園子 ・新採用者との企画について
		5月15日(水)	出張 新人育成(実地指導者) みんなで新人を育てよう
		6月17日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習 「新採用者が起こしやすいヒヤリハットについて」 講師：医療安全管理室 看護主査 富樫 恭子 ・教育担当者企画の研修～指導力を向上させていくために～
		10月2日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「メンタルセルフケア・メンタルサポート ～理論から実践へ～」 講師：県立鶴岡病院 精神科認定看護師 安部 和明 氏
		10月18日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク『6ヶ月を振り返り、今後の指導について考える』 ・教育担当者企画の研修～応援します♪新人育成!!～
		平成26年 2月21日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・1年の振り返り研修 レポート発表 『指導者としての自己の振り返り』 ・グループワーク 『1年間を振り返り、新人を受け入れる職場環境とは』
	教育担当者研修	4月10日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「職場における教育担当者としての役割」 講師：教育担当統括主幹 蛸井 妙子 ・講義：「教育担当者の役割の実際について調査報告」 講師：教育委員 看護主査 伊藤 淑子
		5月23日(木) 5月24日(金)	出張 研修責任者・教育担当者研修～応援します♪新人育成!!～
		5月31日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク 『指導者を支援するための具体的企画について』
		6月17日(月)	(指導者をサポートするための研修①) 新採指導者へ ～指導力を向上させていくために～
		10月18日(金)	(指導者をサポートするための研修②) ～応援します♪新人育成!!～
		平成26年 2月21日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク 『教育担当者としての1年を振り返って－企画研修を実践して－』
		平成26年 3月27日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画(新採用者・2年目ナース・指導者)の説明 担当：教育委員
		2年目ナース研修	4月17・18日 4月19日(金)
			<ul style="list-style-type: none"> ・2年目ナース年間教育計画についての説明 講師：教育委員 佐藤 郁 ・講義：「2年目ナースとしての役割と心得・メンバーシップについて」 講師：教育委員 看護主任 難波 裕子 ・グループワーク 『2年目ナースとして求められること』
	6月14日(金)		出張 通常総会

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容	
必 須 研 修		7月19日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「庄内プロジェクトについて」 講師：地域連携室 看護係長 富樫 清 ・講義：「2年目の医療安全について」 講師：GCU看護係長 大瀧 志保 	
		10月21日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「フィッシュ!哲学」 講師：教育委員長 高橋 深雪 ・講義：「アサーティブコミュニケーション」 講師：地域連携室 看護係長 富樫 清 ・グループワーク 	
		平成26年 3月7日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・ナラティブ 「心に残った看護体験」 ・1年の振り返り 決意表明 「3年目に向けての決意」 	
	3年目ナース研修	4月18日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・3年目ナース研修オリエンテーション ・研究計画書の記載方法や研究集録の記載方法 講師：教育委員 佐藤 郁 ・演習『心に残った看護体験』 	
		7月26日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「メンバーシップ、リーダーシップとは」 講師：教育委員 看護係長 佐藤 郁 ・講義：「問題解決能力について」 講師：教育委員 看護主査 伊藤 淑子 ・実践：カテゴリー化 グループワーク『チーム活動で悩んでいることを解決していくためには』 	
		9月12日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「危険予知から安全活動に！ 医療安全マニュアルに基づいて看護実践ができる」 講師：GCU看護係長 大瀧 志保 	
		11月7日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・事例研究発表会 ・グループワーク『事例研究を通し、これからの看護を考える』 	
		平成26年 1月16日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・1年の振り返り研修 プレゼンテーション 今後の決意表明 『私の目指す看護』 グループワーク『より良い看護実践に向けた今後の課題』 ーリーダーシップ・メンバーシップを発揮してー 	
		役 割 研 修	4月22日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・中堅ナース研修オリエンテーション 講師：教育委員 伊藤 仁美
			5月28日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「医療安全対策について ー事例を分析してみようー」 講師：医療安全管理室 看護主査 富樫 恭子 ファシリテーター：看護係長 牧 順 看護係長 大瀧 志保
6月13日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・演習：「私の看護のこだわり」 講師：教育委員 看護係長 成澤 知美 			
8月20日(火)	出張 中堅看護師が元気になるために一大切なわたし、大切なあなたー			
9月10日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「荘内病院のチーム医療体制」 講師：看護主幹 丸山 邦 ・グループワーク 『荘内病院のチーム医療を知り、自分の役割を考えよう』 			
10月2日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「メンタルヘルスケア・メンタルサポート」 講師：県立鶴岡病院 精神科認定看護師 安部 和明 氏 			
10月31日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「成人教育に必要な基礎知識」 講師：臨床指導委員会 園山 圭 ・グループワーク 			

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
役 割 研 修		平成26年 1月17日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 1年の振り返り プレゼンテーション 自分のキャリアプラン 『これから目指したい看護』
	リーダーナースⅠ研修	4月22日(月)	<ul style="list-style-type: none"> リーダーナースⅠ研修オリエンテーション 講師：教育委員 加藤 恭子 看護研究オリエンテーション 看護研究要項より 講師：看護研究委員長 奥井 麻里 看護研究 研究の倫理的配慮について 講師：看護研究委員 五十嵐 可奈子 看護研究 研究計画書の書き方 講師：看護研究委員 加藤 咲子 看護研究 文献検索について 講師：看護研究委員 齋藤 美記
		5月28日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「医療安全対策について -事例を分析してみよう-」 講師：医療安全管理室 看護主査 富樫 恭子 ファシリテーター：看護係長 牧 順 看護係長 大瀧 志保
		6月21日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「荘内病院の現状と今後の展望」 講師：事務部長 板垣 博 講義：「看護管理とリーダーシップ」 講師：看護部長 佐藤 さゆり
		9月5日(木)	出張 看護倫理 -倫理的ジレンマへの対応-
		10月2日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「メンタルヘルスケア・メンタルサポート」 講師：県立鶴岡病院 精神科認定看護師 安部 和明 氏
		12月20日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 看護研究発表 グループワーク 『看護研究を通して学んだこと』
		平成26年 1月29日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 1年の振り返り研修 プレゼンテーション 『あなたが目指す看護の役割モデルとは』
	リーダーナースⅡ研修	4月22日(月)	<ul style="list-style-type: none"> リーダーナースⅡ研修オリエンテーション 講師：教育委員 加藤 恭子
		5月28日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「医療安全対策について -事例を分析してみよう-」 講師：医療安全管理室 看護主査 富樫 恭子 ファシリテーター：看護係長 牧 順 看護係長 大瀧 志保
		6月25日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「主幹・主査・係長・主任の補佐としての役割」 講師：看護部長 佐藤 さゆり 講義：「職場で活かす業務管理ポイント」 講師：看護副部長 河田 夏子
		10月2日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「メンタルヘルスケア・メンタルサポート」 講師：県立鶴岡病院 精神科認定看護師 安部 和明 氏
		10月22日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「クレーム対応について」 講師：看護副部長 佐藤 千鶴子
	全 体 研 修	看護研究	11月22日(金)
		11月28日(木)	部署の看護研究発表 2回目
看護学会報告		12月6日(金)	院外投稿看護学会発表 研究発表会
技術研修		4月25日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「安全・安楽な体位と移動」 講師：PT 小林 拓 氏
		7月5日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「経管栄養と看護ケア（胃瘻、腸瘻、経鼻胃管）」 講師：NST委員会

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
全 体 研 修		9月20日(金)	・講義：「経鼻栄養チューブ挿入」 講師：NST委員会
	院内研修 (指導者・中堅リーダーⅠⅡ)	10月2日(水)	・講義：「メンタルヘルスケアとメンタルサポート」 講師：県立鶴岡病院 精神科認定看護師 安部 和明 氏
	専門分野	5月7日(火)	・感染管理ベーシックコース研修会 第1回 『標準予防策の重要性とピットフォール』 講師：感染管理認定看護師 看護係長 若松 由紀子
		6月5日(水)	・感染管理ベーシックコース研修会 第2回 『問題となる病原微生物への基本的対応』 講師：感染管理認定看護師 看護係長 若松 由紀子
		7月4日(木)	・感染管理ベーシックコース研修会 第3回 『攻めのカテーテル管理』 講師：感染管理認定看護師 看護係長 若松 由紀子
		9月6日(金)	・感染管理ステップアップコース研修会 第1回 『感染症事例から考える感染対策』 講師：感染管理認定看護師 看護係長 若松 由紀子
		10月18日(金)	・感染管理ステップアップコース研修会 第2回 『アウトブレイク事例から考える感染対策』 講師：感染管理認定看護師 看護係長 若松 由紀子
		5月9日(木)	・皮膚・排泄ケア研修会ベーシック 第1回 『即実践！ スキンケアと創傷管理』 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護主任 梅本 貴子
		6月7日(金)	・皮膚・排泄ケア研修会ベーシック 第2回 『実践から学ぶ！ スマートケアのポイント』 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護主任 梅本 貴子
		7月11日(木)	・皮膚・排泄ケア研修会ベーシック 第3回 『はじめよう！ 失禁ケア』 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護主任 梅本 貴子
		9月12日(木)	・皮膚・排泄ケア研修会ステップアップ 第1回 『アドバンスド創傷ケア専門の皮膚ケアの実践とハイリスクケースへのアプローチ』 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護主任 梅本 貴子
		10月10日(木)	・皮膚・排泄ケア研修会ステップアップ 第2回 『アドバンスド排泄ケア-排泄リハビリテーションの理論と実践』 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護主任 梅本 貴子
		5月14日(火)	・緩和ケア研修会 第1回 『緩和ケアって…何？』 講師：緩和ケア認定看護師 釵持 朝子
		6月14日(金)	・緩和ケア研修会 第2回 『疼痛とその評価』 講師：緩和ケア認定看護師 釵持 朝子
		7月23日(火)	・緩和ケア研修会 第3回 『難しい場面でのコミュニケーション』 講師：緩和ケア認定看護師 釵持 朝子
		5月20日(月)	・がん化学療法看護研修会 第1回目 『がん化学療法の概論-治療の目的・特徴-』 講師：がん化学療法看護認定看護師 佐々木 孔美
		6月26日(水)	・がん化学療法看護研修会 第2回目 『代表的な副作用症状と対処方法Ⅰ-骨髄抑制・悪心・嘔吐-』

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
全 体 研 修			講師：がん化学療法看護認定看護師 佐々木 孔美
		7月29日(月)	<ul style="list-style-type: none"> がん化学療法看護研修会 第3回目 『代表的な副作用症状と対処方法Ⅱ-皮膚障害・脱毛-』 講師：がん化学療法看護認定看護師 佐々木 孔美
	看護補助者研修	4月30日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 病院の理念・基本計画・対象の理解について 講師：看護主幹 大滝 由紀 接遇・倫理面 看護補助者としての心構え・守秘義務・個人情報保護 報告・連絡・相談 身だしなみ・言葉使い・ていねいな対応など 講師：看護主幹 日下部 京子 医療安全について 講師：医療安全管理室 看護主査 富樫 恭子 感染対策について 講師：感染管理認定看護師 看護係長 若松 由紀子
		7月12日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 「おむつ交換」感染対策のポイント 講師：感染管理認定看護師 看護係長 若松 由紀子 褥瘡予防対策のポイント 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護主任 梅本 貴子
		10月11日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 医療安全を考慮した患者移動について 講師：医療安全管理室 看護主査 富樫 恭子 基本的な食事介助について 講師：NST委員会
		12月12日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 接遇 講義とGWで振り返り 講師：倫理委員会

3年目ナース研修 看護研究発表

研 究 テ ー マ	氏 名	
全身麻酔手術を受ける幼児の恐怖心緩和 ーブレパレーションを試みてー	4階東	斎藤絵梨子
緊急手術となった児の母親の心理段階を踏まえた看護援助の考察	4階東	牧野美奈代
出生児がNICU入院と予測される切迫早産妊婦に対しての出産前NICU見学の効果	4階西	土谷 碧
癌患者とその家族の気持ちに寄り添う終末期ケアを考える ーコミュニケーションツールとしての療養日誌を活用してー	4階西	本間めぐみ
早産児を出産した母親の心理過程に合わせた看護援助 ー低出生体重児と親における関係性の発達モデルに合わせて考察するー	GCU	矢口朋美
閉塞性動脈硬化症により下肢切断になった患者の受容過程と看護の関わり	5階東	栗本こすも
人工股関節置換術施行患者への脱臼予防指導 ー脱臼に対する不安を軽減するための個別的な関わりー	5階東	畠山愛梨
胃瘻造設前後での家族の心理的变化について ー脳血管疾患により嚥下障害がある患者・家族との関わりを通してー	6階東	清和穂奈美
片麻痺のある患者の障害受容とセルフケア意欲を与える関わり ーフィンの危機理論を用いてー	6階東	三浦ひかり
脳血管疾患を発症し不隠行動の見られる患者へのかかわり ー日光浴を用いたかかわりを通してー	6階東	菊地 彩
持続連行式腹膜透析から自動腹膜透析に切り換えた患者家族への指導	6階西	菅原千愛
血液透析導入となる患者の心理の理解と看護援助の振り返り	6階西	佐藤恵美
肺がん患者のQOL向上に向けた援助	7階東	馬場 福
ペースメーカー植え込み術後患者のセルフケア能力向上に向けた看護援助	7階西	蓮井李奈
心筋梗塞により寝たきり状態からセルフケア確立にむけての関わり者のQOL向上に向けた援助	7階西	長谷川志穂
壮年期にある乳房全摘術後患者のボディイメージ変容の受容を促す看護介入	8階東	成澤 亜未
腹水による苦痛を訴えている患者への苦痛緩和に向けてのー考察 ーアセスメントシートを活用した看護援助を試みてー	8階西	秋葉 滂
胃瘻造設を受けた患者・家族の皮膚観察及びスキンケアに焦点をおいた退院指導について ー視覚的なパンフレットを活用してー	8階西	鈴木真理子
在宅療養を希望する患者と家族への効果的な退院調整	地域医療 連 携 室	渡部文子
重症心身障害児の母親への心理状態に合わせた援助	集中治療 センター	千葉千恵美

リーダーナース研修Ⅰ 看護研究発表

研 究 テ ー マ	氏 名	
小児入院棟における入院時チェックリストの改訂に向けて －スタッフへの意識調査を行って－	4階東	石川 沙 織
チームカンファレンスに対する看護師の意識調査 －定着させるための課題を見出す－	4階東	齋 藤 多 恵
臨床現場の助産師・看護師が行う「生命の大切さ」を伝える性教育を実施して －受講した高校生へのアンケート調査から－	4階西	本 間 文
婦人科手術後の退院の見直し －退院指導用しおりの作成を試みて－	4階西	佐 藤 南
皮膚悪性腫瘍の化学療法クリティカルパス導入に向けての取り組み	5階東	土 田 彩
大腿骨近部骨折における看護の振り返り －キャリアラダーによる看護介入の違いについて－	5階西	佐 藤 牧
担当看護師が行っている退院支援の意識調査に対する分析 －実施状況と今後の課題－	5階西	足 田 仁 美
皮膚観察への意識向上に向けた取り組み －皮膚観察チェックシートを用いて－	7階東	馬戸場亜希菜
帝王切開術における業務連携に関する取り組み －手術センター看護師と助産師の情報交換会を試みて－	手 術 センター	坂 尾 麻 衣
手術センターにおける余剰材料削減への取り組み －コスト意識調査を行って－	手 術 センター	菅 原 知
救急センターの電話相談の実態と今後の課題	救 急 センター	池 田 章 華

リーダーナース研修Ⅱ 看護研究発表

研 究 テ ー マ	氏 名	
病棟看護師が退院調整を理解するための取り組み －退院調整チェックシートの作成を試みて－	4階東	石川 愛 子
NICU・GCUにおけるブレデンQスケール導入を試みて	NICU	中 野 早 苗
新生児入室チェックリストの導入 －フィジカルアセスメントの標準化－	NICU	板 垣 朋 子
新生児血糖測定スケールの改訂 －新生児の安全と安楽を守るために－	4階西	後 藤 千 恵
物流棚からはじめる5S －無駄をなくして効率的に－ 整理、整頓、清掃、清潔、躰	7階東	富 樫 千 代 美
倫理カンファレンス定着による看護の変化	8階東	齋 藤 恵 子
人工呼吸器関連肺炎（VAP）サーベイランスのデータ収集と分析の充実 －ICTとしての役割－	集中治療 センター	佐 藤 さ お り
急性期からの栄養管理確立に向けての取り組み	集中治療 センター	若 生 円
倫理カンファレンスの定着化に向けて	集中治療 センター	齋 藤 友 子

V 各診療科別および 各部門別の臨床統計

1. 循環器科

2013年1月1日から12月31日までの検査、治療成績を報告する。

表1 カテーテル検査・治療

	2013年	2012年	2011年
診断カテーテル検査	183	165	148
冠動脈形成術 PCI	108(58)	152 (58)	109 (48)
血管内超音波検査	97	116	54
末梢血管形成術 PTA	11	11	4
ペースメーカー植え込み、交換	73	48	58
カテーテル焼灼術	1	3	1
下大静脈フィルター	8	10	9
IABP	8	10	7
PCPS	0	1	0
合 計	489	516	390

() 緊急PCI

表2. 非侵襲的検査

	2013年	2012年	2011年
心エコー検査	2623	2362	1463
ホルター心電図	234	304	304
トレッドミル運動負荷試験	104	77	66
PWV	240	47	0
心筋シンチグラフィー	26	25	49
冠動脈CT	166	198	192
心臓MRI	5	3	1

2. 呼 吸 器 科

	2013年外来患者数		入院患者数	気管支鏡検査数
	新 患	再 来		
1月	18	414	48	5
2月	18	652	41	13
3月	15	735	28	8
4月	16	626	40	10
5月	24	649	31	8
6月	19	630	37	8
7月	28	652	26	17
8月	15	678	35	15
9月	22	642	37	15
10月	19	714	38	18
11月	12	608	34	17
12月	23	578	37	18
計	229	7,578	432	152

3. 外科手術症例（小児外科を除く）

（2013年1月1日～2013年12月31日）

（1）手術総数：538例

予定手術：481（89.4%）

緊急手術：57（10.6%）

（2）麻酔法別手術

全身麻酔：445（82.7%）

腰椎麻酔：50（9.3%）

局所麻酔：43（8.0%）

（3）外科手術533例の内訳

疾患名	患者数	手術術式	手術数
頸部疾患（甲状腺・副甲状腺）	14		
甲状腺癌	6	甲状腺亜全摘＋リンパ節郭清術	6
甲状腺腫・良性腫瘍	8	甲状腺葉切除	8
乳腺	41		
乳癌	33	乳房切除術	13(10)
乳腺症・良性腫瘍	8	乳房温存手術	20(14)
		腫瘍・腫瘍摘出術	8
		止血術	1
		（センチネルリンパ節生検数）	
食道・縦隔疾患	2		
食道癌	2	食道切除術、胸骨後挙上	1
		VATS-E	1
胃・十二指腸	76		
悪性	70	胃全摘出術（脾摘）	24(4)
胃癌（原発）	68	噴門側胃切除術	1
胃GIST	1	幽門側胃切除術	46
十二指腸カルチノイド	1	開腹術	28
		LADG	18
		腹腔鏡下十二指腸部分切除	1

良性疾患	6	胃空腸バイパス術	1
胃潰瘍（穿孔・出血性）	4	試験開腹術	1
十二指腸潰瘍（穿孔・出血性）	1	止血術	1
十二指腸狭窄	1	大網充填術	1
小腸疾患（外傷除く）	16		
小腸穿孔	10	腸管縫合+腹腔内洗浄	9
小腸軸捻転症	1	小腸切除術	6
虚血性腸管壊死	1	軸捻転解除術	1
小腸GIST	3		
クローン病	1		
結腸・直腸・肛門疾患	121		
結腸	90	低位前方切除術	11
癌・悪性腫瘍	77	S状結腸切除術	17
憩室・穿孔・良性腫瘍	11	Hartmann	5
潰瘍性大腸炎	1	Miles	4
クローン病	1		
直腸	27	全結腸切除	1
癌	24	右半結腸切除術	21
穿孔	1	横行結腸切除術	1
直腸脱	2	左半結腸切除術	3
		結腸部分切除術	3
		腹腔鏡補助下結腸切除術	33
		腹腔鏡補助下直腸切除術	3
		バイパス術	1
		人工肛門造設術	12
		直腸脱手術（拳上）	1
		経肛門的直腸脱手術	1

肛門	4	肛門周囲括約筋切開	1
肛門管癌	1	結紮・切除術	2
肛門狭窄	1		
痔核	2		
肝臓疾患	3		
転移性肝腫瘍	3	区域切除	1
		肝部分切除術	1
		マイクロ波凝固	1
胆嚢・胆管・膵臓疾患	90		
膵疾患	11		
膵癌	5	膵頭十二指腸切除術（含む肝切）	5
IPMN	2	膵体尾部切除術	5
MCN	1	腹腔鏡下膵体尾部切除術	1
インスリノーマ	2	腫瘍核出術	1
膵腫瘍	1	膵部分切除	2
胆道疾患	79		
胆嚢癌	4		
胆管癌	6	腹腔鏡下胆嚢摘出術	57
		開腹胆嚢摘出術	10
胆石症・胆嚢炎	39	胆管切開結石摘出術	5
総胆管結石	5	胆道再建	1
胆嚢ポリープ・腺筋症	25	肝床切除術+リンパ節郭清	1
		バイパス術	2
腸閉塞疾患(癌・ヘルニア嵌頓は除く)16			
癒着性腸閉塞	13	癒着剥離	10
絞扼性腸閉塞	3	腸切除術	4
		人工肛門造設術	2
虫垂疾患	25		
急性虫垂炎	25	開腹虫垂切除術	6

		回盲部切除術	1
		腹腔鏡下虫垂切除術	18
腹部外傷	4		
消化管損傷	1	消化管切除・縫合	1
腸間膜損傷	3	腸間膜修復	3
ヘルニア	82		
鼠径ヘルニア	65	メッシュ法等人工素材	64
大腿ヘルニア	8	MacVay	7
癒痕ヘルニア	4	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	1
閉鎖孔ヘルニア	2	直接閉鎖術	7
臍ヘルニア（嵌頓）	3	その他	3
体表	12		
リンパ節腫脹	9	リンパ節生検	9
体表腫瘍・感染	3	腫瘍摘出術	2
		創部洗浄	1
CV ポート造設術	22	CVポート造設術	22
その他			
上記分類不能	8		

過去8年間の主な癌症例数の推移

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
胃癌	94	86	85	96	89	67	85	66	68
結腸・直腸癌	65	74	92	87	84	82	83	82	101
乳癌	37	46	48	54	42	32	38	37	33

4. 小児外科手術症例

(2013年1月1日～12月31日)

(1) 手術総数：77例

予定手術：59 (76.6%)

緊急手術：18 (23.4%)

腹腔鏡手術数：32 (41.6%)

(2) 小児外科手術77例の内訳

疾患名	手術術式		
1 ヘルニア		40	40
1 鼠径ヘルニア		38	
	男	22	23
	女	16	15
	鼠径ヘルニア手術		
	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術		
臍ヘルニア	臍ヘルニア手術	2	2
2 虫垂炎	腹腔鏡下虫垂切除術 (待期8例含む)	13	13
3 泌尿生殖器		3	3
停留精巣	停留精巣固定術	3	3
4 十二指腸・小腸・結腸・肛門		9	9
Peutz-Jegheres症候群	1 大腸内視鏡検査・ポリープ切除		2
Hirschsprung病	3 経肛門的直腸粘膜生検		1
癒着性イレウス	1 腹腔鏡補助下pull-through手術		3
低位鎖肛	1 鎖肛根治手術 (会陰式: Cut back)		1
血便	1 経肛門的ポリープ切除		1
肛門ポリープ	1 腹腔鏡下大網充填術		1
穿孔性十二指腸潰瘍	1		
5 肝・胆・膵・脾臓		2	3
先天性胆道拡張症	1 胆道切除+胆道再建術		1
胆道閉鎖症	1 PTCD挿入		1
	1 CV挿入		1

6 気道・体表	1	1
頸部腫瘍	1 腫瘍摘出手術	1
7 外傷	2	3
外傷性横隔膜破裂	1 横隔膜修復術+脾臓摘出術（開腹）	1
小腸穿孔	1 気管切開	1
	小腸縫合術	1
8 新生児手術	4	5
先天性食道閉鎖症	1 胃瘻造設術	1
ヒルシュスプルング病	1 気管食道瘻閉鎖・食道-食道縫合	1
先天性空腸閉鎖	1 小腸部分切除術	1
中間位鎖肛	1 人工肛門造設術	1
	経肛門的直腸粘膜生検	1

一部に重複症例を含むため、症例数と手術件数に相違を認めます。

5. 心臓血管外科手術症例

(2013年1月1日-12月31日)

vascular disease	14		14
thromboembolism	1	thrombectomy	1
pseudoaneurysm of lt FA	2	aneurysmectomy	2
vein varix	3	stripping	1
		high ligation & sclerotherapy	2
CRF on HD	5	thrombectomy	2
		thrombectomy & graft interposition	2
		aneurysmectomy	1
others	3	others	3

6. 呼吸器外科

(2013年1月1日～12月31日)

手術総数：100例

全 麻：98例

完全胸腔鏡下手術：73例 (74.5%)

(括弧内は完全胸腔鏡下手術)

<肺悪性>

●原発性肺癌 38 (33)

・肺葉切除術 17 (14)

・肺区域切除術 16 (15)

・肺部分切除術 5 (4)

●転移性肺腫瘍 5 (5)

(直腸癌1、MFH2、リンパ腫2)

・肺葉切除術 1 (1)

・肺部分切除術 4 (4)

<肺良性>

●良性肺腫瘍 (過誤腫2、肺内リンパ節1) 3 (3)

・区域切除術 2 (2)

・肺部分切除術 1 (1)

●炎症性 4 (4)

(肉芽腫1、非結核性抗酸菌症2、線維性病変1)

・肺葉切除術 2 (2)

・区域切除術 1 (1)

・肺部分切除術 1 (1)

●嚢胞性肺疾患 (自然気胸 18) 18 (18)

・ブラ切除術 16 (16)

・ブラ結紮術 2 (2)

●先天性疾患 (肺葉外肺分画症 1) 1 (1)

<縦隔>

●縦隔腫瘍 7 (5)

(胸腺腫3、嚢腫1、血管腫1、他2)

・胸腺切除術 3 (1)

・腫瘍切除術 2 (2)

・針生検 2 (2)

<胸壁・胸膜>

●漏斗胸 (NUSS法) 2 (2)

形成外科手術

●胸骨骨折 (胸骨固定術) 1 (0)

●胸壁膿瘍 (デブリードマン) 2 (0)

●胸膜炎 (胸膜生検) 1 (0)

<気管>

●気管狭窄症 7 (0)

・Laser焼灼+T-tube挿入 1 (0)

・ECMO下 Dumon Y stent挿入

・T-tube入れ替え 2 (0)

・ECMO下 気管切開 1 (0)

・気管切開 2 (0)

<その他>

●呼吸不全 (外科的気管切開) 5 (0)

●急性膿胸 (膿胸腔搔爬術) 2 (2)

●横隔膜損傷 (横隔膜縫合術) 2 (1)

・横隔膜縫合術 1 (1)

・横隔膜縫合+脾摘 1 (0) 外科手術

●術後合併症 (乳び胸1、肺梗塞1) 2 (0)

・胸管結紮術 1 (0)

・肺葉切除術 1 (0)

●頸部リンパ節転移 (頸部リンパ節生検) 1 (0)

◎総評

・手術総数は初めて100件を越えたが、肺癌手術は前年56件から大幅に減った。

・気管狭窄症に対するステント挿入や外科的気管切開術が増加した。

・手術の約75%が完全胸腔鏡下手術であった。

・肺癌に対する胸腔鏡下区域切除術の割合が大幅に増加した。小型肺癌に対する術式として今後普及することが予想されるのでさらに強化していきたい。

7. 整形外科

(2013年1月1日～12月31日)

臨床統計

	手術件数
2013年	1,253件
人工関節	57件
脊椎	153件
関節鏡視下手術	86件
大腿骨近位部骨折	237件
橈骨遠位端骨折手術	51件
など	

8. 形 成 外 科

年 間 の 患 者 数 及 び 手 術 件 数

2013年1月1日～12月31日

形成外科新患者数 912名

形成外科入院患者数 195名（延べ人数ではない）

形成外科手術件数

入院手術	全身麻酔	145件	（合計 185件）
	腰麻・伝達麻酔	1件	
	局所麻酔・その他*	39件	

外来手術	全身麻酔	3件	（合計 412件）
	腰麻・伝達麻酔	0件	
	局所麻酔・その他*	409件	*その他には無麻酔や分類不明を入れる

手 術 内 容 区 分

	件 数						計
	入 院 手 術			外 来 手 術			
	全身麻酔	腰 麻 ・ 伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰 麻 ・ 伝達麻酔	局所麻酔・その他	
I. 外傷	27		2	2		136	167
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷で全身管理を要する非手術例							
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷の手術例	6					1	7
顔面軟部組織損傷	1		1	2		126	130
顔面骨折	19					3	22
頭部・頸部・体幹の外傷	1					4	5
上肢の外傷			1			1	2
下肢の外傷						1	1
外傷後の組織欠損（2次再建）							0
II. 先天異常	31					8	39
唇裂・口蓋裂	7						7
頭蓋・顎・顔面の先天異常	6					8	14
頸部の先天異常							0
四肢の先天異常	12						12
体幹（その他）の先天異常	6						6
III. 腫瘍	43	1	16	1		185	246
良性腫瘍（レーザー治療を除く）	25		8	1		151	185
悪性腫瘍	18	1	8			34	61
腫瘍の続発症							0
腫瘍切除後の組織欠損（一次再建）							0
腫瘍切除後の組織欠損（二次再建）							0
IV. 癬痕・癬痕拘縮・ケロイド	6					10	16
V. 難治性潰瘍	19		6			3	28
褥瘡	1		2				3
その他の潰瘍	18		4			3	25
VI. 炎症・変性疾患			14			19	33
VII. 美容（手術）						1	1
VIII. その他	1						1
Extra. レーザー治療	18		1			47	66
良性腫瘍でのレーザー治療例	18		1			30	49
美容処置でのレーザー治療例						17	17
大分類計	145	1	39	3	0	409	597

9. 眼科臨床統計

眼科観血の手術統計

年 度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	計
水晶体再建術単独 (白内障手術)	349	483	400	481	530	810	648	3701
網膜硝子体手術 (水晶体再建術併施を含む)	67	31	0	0	1	1	1	101
緑内障手術	4	0	0	0	0	0	0	4
外眼部等	16	48	51	55	52	68	53	343
合 計	436	562	451	536	583	879	702	4149

※ 同時手術は別々に数えず主たる手術のみを1件とカウント。

10. 産 婦 人 科

産婦人科手術 (平成25年1月～12月)	総数	255	産科手術	総数	101
			帝王切開	70	
			緊急帝王切開	28	
子宮手術		102	選択的帝王切開	42	
子宮摘出	59		頸管縫縮術	10	
子宮悪性腫瘍	6		子宮内除去術	10	
子宮筋腫	30 (腹腔鏡下2)		人工中絶術	5	
子宮内膜症	7		子宮外妊娠手術	6	
子宮頸部異形成上皮	2				
子宮脱	9		その他		8
その他	5 (腹腔鏡下1)				
子宮筋腫核出	11 (腹腔鏡下2)		分娩件数		186
子宮頸部円錐切除	23				
その他	9				
付属器(卵巣・卵管)手術		44			
悪性腫瘍	7				
良性腫瘍	34 (腹腔鏡下10)				
子宮内膜症	3				
卵巣出血	0				
その他	0				

産婦人科月別外来患者数

(平成25年1月～12月)

月	新患者数(人)	再来患者数(人)	計
1 月	57	770	827
2 月	53	751	804
3 月	59	910	969
4 月	50	853	903
5 月	57	870	927
6 月	67	846	913
7 月	61	929	990
8 月	48	802	850
9 月	71	823	894
10 月	70	896	966
11 月	49	884	933
12 月	59	814	873
計	701	10,148	10,849

産婦人科月別入院患者数

(平成25年1月～12月)

月	入院患者数(人)	退院患者数(人)	延べ入院患者数(人)
1 月	58	50	534
2 月	55	50	594
3 月	43	52	601
4 月	60	50	548
5 月	46	52	646
6 月	44	51	539
7 月	68	65	555
8 月	46	51	570
9 月	50	42	444
10 月	59	61	602
11 月	47	50	595
12 月	47	49	608
計	623	623	6,836

11. 小児科 (NICU)

平成25年の小児科NICU入院数は103例で、前年に比し7例増加した。出生体重別入院数は、500g未満が0例、500～999gが0例、1000～1499gが7例、1500～1999gが7例、2000～2499gが32例、2500g以上が57例で、超低出生体重児例はなく、極低出生体重児の入院も例年に比し少なかった。死亡退院は、新生児搬送された新生児遷延性肺高血圧症例と腸穿孔を併発した13トリソミー例の2例であり、常位胎盤早期剥離による重症仮死で山形県立中央病院に新生児搬送した1例も、搬送先の同病院で死亡した。

出生場所については院内出生が90/103 (87.4%)、院外出生は13/103 (12.6%) で、例年通り圧倒的に院内出生が多かった。院内出生のうち15/90 (16.7%) が母体搬送症例であったが、北庄内からの母体搬送は3/15 (20%) で、前年の1例に比し若干増加した。ハイリスク妊娠が多いため44/90 (48.9%) に帝王切開が実施されており、その中に双胎8組が含まれていた。また人工呼吸管理症例は15/103 (14.6%) で、これも例年に比し低率だった。新生児外科症例は4例で、前述の13トリソミーの腸管穿孔例に加え、ヒルシュスプルング病、直腸肛門奇形、食道閉鎖の3例があり、全例当院で手術を行った。

出生体重	入院数	死亡退院数
～ 499g	0	0
500 ～ 999g	0	0
1000 ～ 1499g	7	0
1500 ～ 1999g	7	0
2000 ～ 2499g	32	1
2500g ～	57	1
計	103	2

本年は、念願であったNICU・GCUの拡張整備工事が実現し、平成25年6月25日から改築工事が始まった。9月25日から12月4日までの2か月半はNICU本体の工事のため、仮設のNICUを4東入院棟の4床室に造って、狭いスペースで何とか運営し凌いだ。12月4日に新しい新生児治療センターがオープンし、NICU 6床GCU 6床の計12床に増床された。

新しいNICUは、各々のベッドに各種モニター・機器へのエネルギー供給を集約する形で縦型コラムシステムを設置した。従来のウォールケアユニットと違い、壁から独立した機器配置になっているため、床にコード類が這うことなく空間レイアウトがスッキリしている。NICUの面積も35㎡から71㎡に倍増され、医療者の作業空間が保たれるようになった。GCUも4床から6床に増床されたが、本来の急性期を過ぎた児を育てる病床に特化したため、逆に床面積は53㎡から44㎡に減った。ただし廊下側からガラス越しに面会できるようになり、家族を配慮した設計になっている。

平成26年2月28日に全工事が終了、今回の改築の目玉の一つであるファミリールームが完成した。退院間近の母子が共に過ごしたり、不幸にして亡くなる児と家族が最期に一緒に過ごすことができる部屋になっている。そして今回も鶴岡市出身の絵本作家である土田義晴先生のご好意により、新生児治療センターの廊下の壁とセンター内の壁に絵を描いていただき、センターはメルヘンチックな土田ワールドが広がっていて、温かな雰囲気をかもし出している。

12. 小 児 科

小児科 2013年入院病棟

2013年1月から12月までの小児科病棟（4東病棟）における入院患者の総数は939名（男児509名，女児428名）であった。月別の入院患者数を図1に示す。春と秋に緩やかな患者数増加が見られたが、2012年度（図2）に比べると季節による患者数の

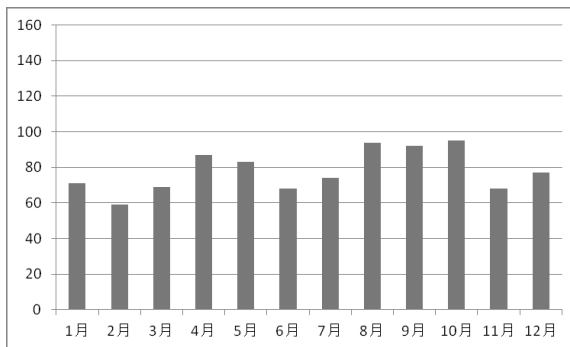


図1. 2013年度における月別の入院患者数

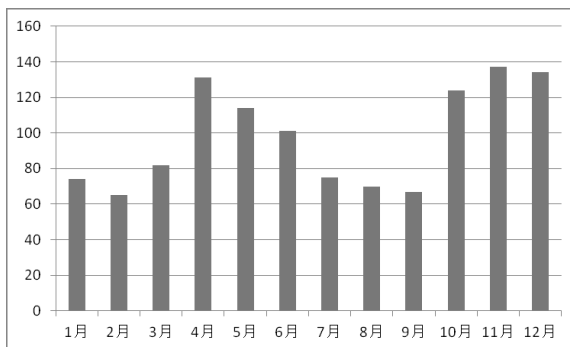


図2. 2012年度における月別の入院患者数

変動は小さかった。これは2013年度は1年を通じてインフルエンザや感染性腸炎などの季節性ウイルス性疾患の大流行が見られなかったためと思われる。疾患別入院患者数の内訳を表1に示す。昨年度よりも呼吸器感染症，消化器疾患の患者数が約100名ずつ少なく，2011年度とほぼ同等の患者数となっており，呼吸器，消化器ウイルスの流行によって大きく患者数が左右されることが分かる（本統計では感染性胃腸炎は消化器疾患に含めて

いる）。気管支喘息患者は減少していたが，小児の喘息発作は感冒誘発による事が多く，これも呼吸器ウイルス感染の流行が小規模であったことに関連していると思われた。川崎病は23名と例年並の患者数であり，2012年度よりも10名の増加を認めた。川崎病の病因の1つとしてウイルス感染の関与が疑われているが，日常診療の中でインフルエンザや感染性腸炎（ノロウイルスやロタウイルスなど）のような感染症を先行感染として川崎病の発症を見ることは少ない印象がある。2012年度はこれらウイルスの大流行が続き，それによって流行を妨げられた他のウイルスが川崎病の発症に関与しているのかも知れない。他，神経疾患は例年よりも多かったが疾患としては熱性けいれん，てんかんなど一般的な疾患が多かった。他の疾患群については大きな変化を認めなかった。ICUで治療を行った小児科患者は8名であり，低酸素性脳症，急性脳症，痙攣重積発作，心不全などが主な要因であった。

2010年から行っているNICU，ICUを除く小児患者の入院時刻についての調査結果を図3に示す。日勤帯（8時30分～17時15分）の入院患者数は540名（57.5%），夜勤帯（17時15分～8時30分まで）の入院患者数は399（42.3%）であった。依然として21時～23時台の入院が選定療養費算定以前（2010年，2011年）に比して高く，17時～18時台の入院は低い傾向にあった。21時～23時台の入院患者の多くは数日前から症状が見られ自発的にその時間に受診した患者である。一旦休日診療所などを受診したために受診時刻が遅くなる患者も殆どいない。選定療養費加算の算定開始により不要不急の患者については受診を抑制し適切な救急外来の利用に繋がっていると考えられるが，入院を要するような患者の適切な受診誘導，出来るだけ日勤帯に受診していただく為の誘導については更なる工夫が必要と思われる。荘内病院小児科では，

地域の保育園、幼稚園で保護者および保育士を対象としたこどもの日常疾患についての救急医療講習を行い、その際に適切な救急外来利用についての啓蒙を行い一定の効果を得ている。夜間帯受診

者の減少のためには働く保護者がこどもの体調不良時に休みを取得しやすい体制作りが必要があり、地域をあげての社会環境整備やサポートが必要と思われる、より踏み込んだ対策が必要と考えている。

表 1. 疾患群ごとの入院患者数の内訳

疾患群	2013	2012	2011
呼吸器感染症	397	496	388
消化器疾患	110	215	94
気管支喘息	126	196	175
神経疾患	147	122	113
その他の感染症	46	50	46
腎・泌尿器疾患	27	27	22
川崎病	23	12	22
内分泌・代謝疾患	13	12	11
アレルギー・免疫疾患	18	10	10
血液・腫瘍性疾患	6	9	6
事故	7	8	11
循環器疾患	2	4	4
心身症	2	0	7
その他	13	13	10
合計	937	1,174	919

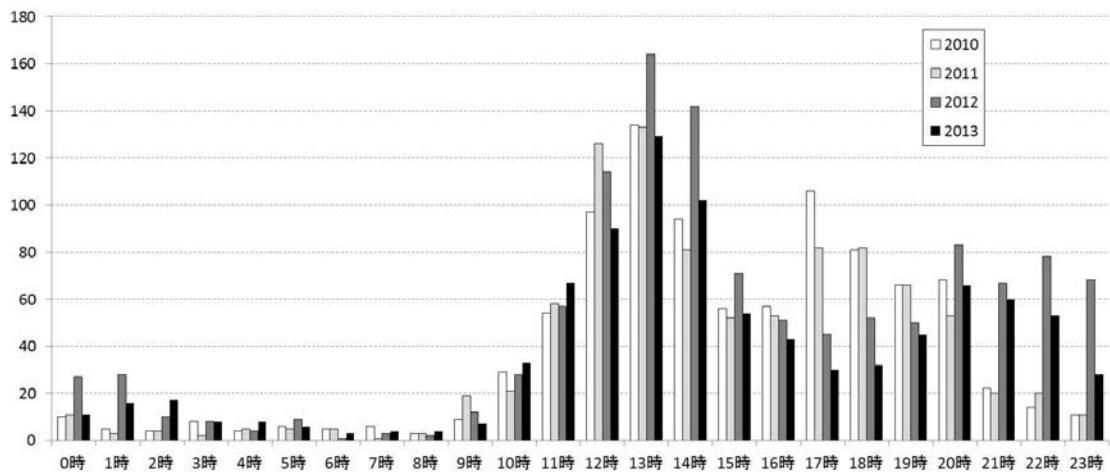


図 3. 時間ごとの入院患者数

13. 耳鼻咽喉科

2013年耳鼻咽喉科入院内訳

(耳)	
浸出性中耳炎	3
突発性難聴	4
顔面神経麻痺	1
眩暈症	19
外耳道異物	2
(鼻)	
鼻出血	3
(咽喉頭)	
喉頭悪性腫瘍	3
咽頭異物	3
流行性耳下腺炎	1
急性咽喉頭炎(急性扁桃炎を含む)	4
習慣性扁桃炎	2
IgA腎症(扁桃摘)	2
アデノイド増殖症	1
頸部膿瘍	1
扁桃周囲炎+膿瘍	4
扁桃肥大	1
睡眠時無呼吸症候群	4
頸部リンパ節腫脹	1
計	59

2013年手術内訳

鼓室内チューブ留置術	4
外耳道異物摘出術	2
咽頭異物摘出術	3
口蓋扁桃摘出術	14
アデノイド切除術	3
頸部リンパ節生検術	2
喉頭腫瘍切除術	2
計	30

14. 皮 膚 科

2013年 外来患者数

	新 患	再 来	合 計
1 月	43	156	199
2 月	30	148	178
3 月	39	133	172
4 月	30	152	182
5 月	50	178	228
6 月	52	156	208
7 月	77	196	273
8 月	114	168	282
9 月	56	145	201
10 月	33	150	183
11 月	70	145	215
12 月	69	170	239
計	663	1,897	2,560

15. 泌 尿 器 科

平成25年 泌尿器科手術件数

手 術 名	件 数
根治的腎摘除術	3
腎尿管全摘膀胱部分切除術	4
経尿道の尿管結石碎石術	6
体外衝撃波結石破碎術	76
膀胱全摘術	2
経尿道の膀胱癌手術	56
経尿道の膀胱結石碎石術	11
前立腺全摘術	3
経尿道の前立腺切除術	2
前立腺生検	87
精巣悪性腫瘍手術	3
陰のう水腫根治術	2
その他	7
計	262

16. 放 射 線 科

〔臨床統計〕

・原疾患別放射線治療新患者数（平成25年1月～12月）

1. 脳・脊髄腫瘍	0例	8. 婦人科腫瘍	1例
2. 頭頸部腫瘍 (甲状腺腫瘍を含む)	3例	9. 泌尿器系腫瘍 (うち前立腺癌)	37例 31(例)
3. 食道癌	18例	10. 造血リンパ系腫瘍	4例
4. 肺癌・気管・縦隔腫瘍 (うち肺癌)	32例 31(例)	11. 皮膚・骨・軟部腫瘍	5例
5. 乳癌	16例	12. その他(悪性腫瘍)	1例
6. 肝・胆・膵癌	3例	13. 良性疾患	0例
7. 胃・小・結・直腸癌	5例	14. (15歳以下の小児)	0例

・過去3ヵ年の撮影患者数の動向

(単位：人)

	H23年1～12月	H24年1～12月	H25年1～12月
勤務時間内	64,461	63,652	63,388
勤務時間外	21,207	16,689	16,036
合 計	85,668	80,341	79,424
前 年 比			98.86%
対前々年比			92.71%

・カテーテル法的治療患者数（H.25年1月～12月）

放射線科 血管撮影 31人

脳神経外科 血管撮影 106人

TACE（肝動脈化学塞栓術） 28人

その他IVR（血管内治療） 3人

動脈瘤コイル塞栓術 13人

CAS（頸動脈ステント留置術） 1人

その他IVR（血管内治療） 10人

〔業務統計〕

・撮影種別（時間外）患者数（H24年及びH25年）

(単位：人)

撮 影 項 目	H24年 1月～12月			H25年 1月～12月		
	勤務時間内	勤務時間外	合 計	勤務時間内	勤務時間外	合 計
一 般 撮 影	30,534	8,861	39,395	29,200	7,989	37,189
ポ ー タ ブ ル 撮 影	5,380	2,660	8,040	5,521	2,239	7,760
乳 房 撮 影	1,639	0	1,639	1,656	2	1,658
パ ン ト モ 撮 影	628	25	653	700	24	724
骨 塩 定 量	1,388	0	1,388	1,391	0	1,391
結 石 破 砕	67	0	67	71	1	72
X 線 TV	1,797	136	1,933	1,898	258	2,156
一 般 ア ン ギ オ	110	24	134	145	21	166
循 環 器 ア ン ギ オ	373	72	445	389	62	451
C T	12,819	3,814	16,633	12,800	4,348	17,148
M R I	5,482	1,096	6,578	5,671	1,092	6,763
R I	340	1	341	329	0	329
放 射 線 治 療	3,095	0	3,095	3,617	0	3,617
合 計	63,652	16,689	80,341	63,388	16,036	79,424

17. 麻 酔 科

【合計】

麻酔科管理症例数	1,410	(うち手術室内 1,402、手術室外 7)
----------	-------	-----------------------

【ASA PS】

予定 1	2	3	4	5	6 (臓器摘出を受ける 脳死患者が対象)	合 計
285	805	137	0	0	0	1,227
緊急 1 E	2E	3E	4E	5E	6E(臓器摘出を受ける 脳死患者が対象)	合 計
18	96	60	9	0	0	183
					合 計	1,410

【手術部位】

a.脳神経・脳血管	80	h.頭頸部・咽喉部	180
b.胸腔・縦隔	82	k.胸壁・腹壁・会陰	114
c.心臓・血管	1	m.脊椎	142
d.胸腔+腹部	5	n.股関節・四肢(含：末梢神経)	251
e.上腹部内臓	231	p.検査	2
f.下腹部内臓	314	x.その他	6
g.帝王切開	2	合 計	1,410

【麻酔法】

A.全身麻酔(吸入)	501	F.硬膜外麻酔	3
B.全身麻酔(TIVA)	358	G.脊髄くも膜下麻酔	2
C.全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	250	H.伝達麻酔	0
D.全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻	291	X.その他	3
E.脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA)	2	合 計	1,410

【年齢構成】

	男 性	女 性	合 計
A.～1ヶ月	2	3	5
B.～12ヶ月	14	10	24
C.～5歳	53	31	84
D.～18歳	63	59	122
E.～65歳	282	288	570
F.～85歳	282	280	562
G.86歳～	18	25	43
合 計	714	696	1,410

【体位】

1. 仰臥位	1,050	4. 切石位	57
2. 腹臥位	158	5. 坐位	21
3. 側臥位	121	6. その他	3
合 計	1,410		

【性別】

男性	女性	合計
714	696	1,410

【偶発症例】

A.危機的偶発症	0	C.その他の神経系偶発症	0
B.神経系偶発症(脳・脊髄)	0	D.その他	0
合 計	0		

18. 病 理 科

臨床統計

病理検査は院内検査が微増したものの、医師会の検査の減少により、総計では2.8%の減となった。

検査種類別に見てみると、組織診では一臓器が増加したものの、二臓器、三臓器と臓器数の多いものが減少したためほぼ前年並みであった。細胞診では一般細胞診の増加により増となった。診療

科毎の件数を見てみると、組織診では呼吸器科、歯科口腔外科が増加し、外科、泌尿器科、皮膚科が減少した。作成ブロック数と標本枚数の減少は外科の件数の減少に拠るところが大きい。そのため免疫染色などの件数も減少した。

細胞診では呼吸器科、外科、泌尿器科が増加し、他はほぼ前年並みであった。

表 1 2013年 病理検査件数

検査種類	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年計	増減数	増減率
組織診一臓器	230	231	228	227	190	214	233	207	216	251	221	197	2645	2634	11	0.4
組織診二臓器	16	20	24	23	22	22	23	11	21	23	28	28	261	281	-20	-7.1
組織診三臓器	2	4	5	7	2	4	4	5	12	4	4	4	57	68	-11	-16.2
術中迅速組織診	9	9	7	13	6	15	9	3	4	14	10	8	107	109	-2	-1.8
細胞診検査	293	301	361	310	322	315	296	301	358	351	348	320	3876	3632	244	6.7
術中迅速細胞診	3	1	4	6	2	6	2	3	1	0	1	1	30	31	-1	-3.2
検診細胞検査	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3	-2	-66.7
ドック細胞検査	85	84	69	84	89	87	97	97	77	109	83	79	1040	1078	-38	-3.5
外部委託検査	6	9	3	10	4	13	11	6	18	10	13	7	110	121	-11	-9.1
病理検査小計	644	659	701	680	638	676	675	633	707	762	708	644	8127	7957	170	2.1
病理解剖	2	1	1	0	0	1	0	0	1	1	1	2	10	6	4	66.7
免疫染色	28	36	22	36	31	28	29	34	24	29	21	15	333	553	-220	-39.8
医師会組織診	236	224	286	265	298	325	306	279	298	338	305	277	3437	3640	-203	-5.6
医師会細胞診	69	69	56	51	60	98	83	72	73	80	77	68	856	975	-119	-12.2
病理検査総計	979	989	1066	1032	1027	1128	1093	1018	1103	1210	1112	1006	12763	13131	-368	-2.8

表 2 2013年 診療科別統計 (前年件数)

診療科	受付件数組織診	作成組織ブロック数	作成標本枚数組織診	受付件数細胞診	作成標本枚数細胞診	剖検数
内科	26 (39)	37 (59)	394 (477)	22 (18)	108 (66)	4 (2)
消化器科	1001 (966)	1317 (1307)	1890 (1854)	57 (61)	252 (269)	0 (2)
呼吸器科	44 (18)	52 (18)	98 (47)	362 (323)	1714 (1577)	0 (0)
外科	508 (540)	4273 (5450)	5995 (7703)	410 (352)	1720 (1610)	0 (1)
呼吸器外科	120 (121)	707 (141)	1093 (2325)	22 (27)	112 (140)	0 (0)
小児外科	27 (28)	105 (121)	139 (234)	3 (1)	20 (8)	0 (0)
泌尿器科	265 (311)	1464 (1779)	1901 (2215)	1323 (1232)	2763 (2627)	0 (0)
婦人科	359 (356)	2013 (2498)	2641 (3439)	1575 (1545)	2124 (2040)	0 (0)
形成外科	242 (237)	502 (618)	685 (1012)	1 (0)	2 (0)	0 (0)
整形外科	76 (79)	117 (132)	200 (244)	95 (94)	370 (366)	0 (0)
耳鼻咽喉科	19 (24)	27 (42)	38 (63)	13 (22)	58 (94)	0 (0)
歯科口腔外科	141 (74)	264 (90)	490 (159)	1 (0)	6 (0)	0 (0)
皮膚科	34 (51)	40 (63)	141 (194)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
脳神経外科	17 (14)	30 (43)	60 (90)	1 (2)	2 (0)	0 (1)
神経内科	1 (2)	1 (2)	1 (2)	6 (6)	12 (12)	0 (0)
小児科	0 (6)	0 (23)	0 (132)	2 (2)	6 (4)	0 (0)
眼科	3 (5)	3 (5)	16 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
人間ドック	185 (203)	186 (214)	253 (250)	1039 (1079)	2712 (2863)	0 (0)
循環器科	8 (15)	9 (15)	29 (20)	9 (2)	48 (10)	1 (0)
その他	1 (2)	2 (6)	5 (12)	7 (1)	7 (8)	5 (0)
合計	3077 (3091)	11149 (13902)	16069 (20477)	4948 (4781)	12036 (11711)	10 (6)

19. 歯科口腔外科

2013.1.1～12.31臨床統計。口腔外科台帳からのデータ。

2012年との比較では、新患・入院・手術センター手術・外来小手術数ともに増加した。院内紹介・救急センター受診数が2倍以上に増加したため、院外紹介率は減少した。

表1 2013年新患

年間新患数	771例	
(内訳) 院外紹介	554例	71.8%
院内紹介	124例	16.1%
救急センター	77例	10.0%
その他	16例	2.1%
歯科：医科	12.5：1	
口腔外科疾患	349例	45.3%
歯科疾患	422例	54.7%

表2 口腔外科疾患の内訳

疾患分類	(例)	(%)
顎関節疾患	53	15.2
炎症	56	16.0
外傷	68	19.5
粘膜疾患	47	13.5
良性腫瘍	31	8.9
唾液腺疾患	15	4.3
悪性腫瘍	12	3.4
顎骨嚢胞	23	6.6
顎変形症 (口蓋裂,SAS依頼を含む)	19	5.4
その他	25	7.2

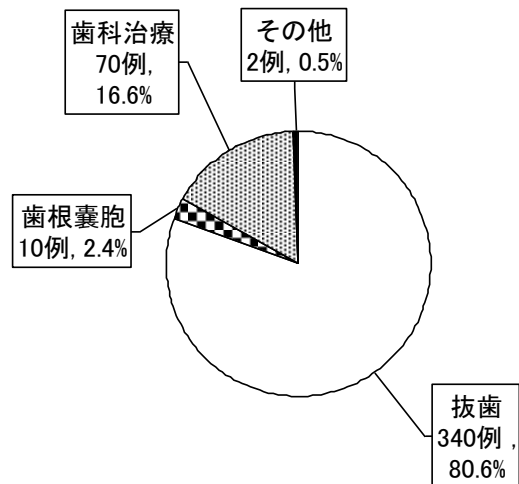


図1 歯科疾患の内訳

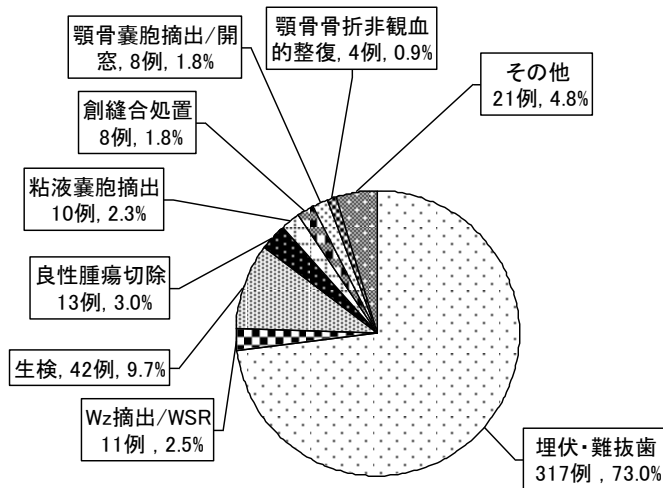


図2 小手術434件の内訳

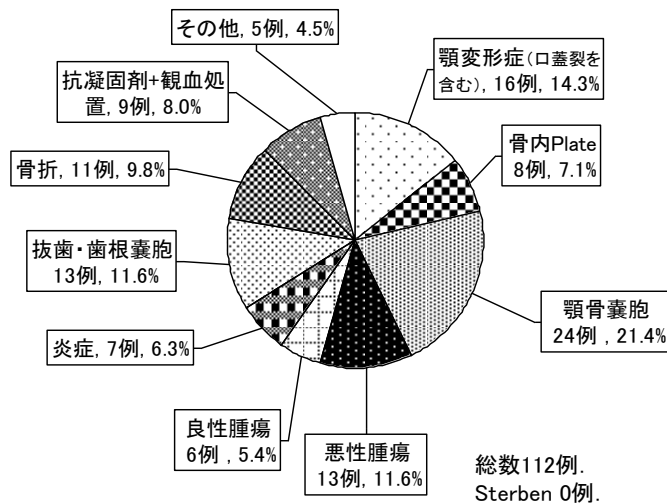


図3 入院の内訳

表3 手術センターでの手術統計

日本口腔外科学会専門医制度の手術難易度区分表(2013.10改訂)の分類に基づいた統計で、研修施設を対象とした口腔外科疾患症例調査に準じて集計した。
 85症例に対して、116術式(複数分野施行・31術式)施行した。
 全麻：62例，IV-S：16例，局麻：7例。

分野記号	レベルI 基本	レベルII 中難度	レベルIII 高難度	レベルIV 超高難度	合計	
A-1	14	11	0		25	21.6%
A-2	0	0			0	0.0%
A-3	0	0	0		0	0.0%
B-1	1	0	0	0	1	0.9%
B-2	24	6	1	0	31	26.7%
B-3	0	0	0	0	0	0.0%
B-4	0	0			0	0.0%
C-1	0	3	0	0	3	2.6%
C-2	2	10	25	1	38	32.8%
C-3	0	0	0	0	0	0.0%
D-1	1	10	0	2	13	11.2%
D-2	0	1	0	1	2	1.7%
D-3		0	0	0	0	0.0%
その他					3	2.6%

<分野記号：分野名>

A-1：歯・歯槽外科手術，A-2：補綴前外科手術/顎堤形成手術/骨移植手術，A-3：口腔インプラント関連手術

B-1：消炎手術，B-2：良性腫瘍・嚢胞・腫瘤形成疾患等の手術，B-3：唾液腺関連手術，B-4：上顎洞関連手術

C-1：顎顔面外傷手術/異物除去手術，C-2：顎変形症関連手術/顎顔面骨延長術，C-3：顎関節手術および関連処置

D-1：癌/前癌病変関連手術および処置(唾液腺悪性腫瘍は別掲)，D-2：再建外科手術，D-3：口唇裂・口蓋裂関連手術

20. 中央検査科

検体検査件数は、細菌検査を除き減少している。過去にも一過性の減少を経験しており今後の推移に注視したい。感染性迅速検査は、インフルエンザ件数が低調な事、マイコプラズマ抗体件数が例年並に落ち着いた事から一昨年並みの件数に戻っている。

一般菌検査は、血液培養検査が積極的に進められていること等から増勢を維持している。

生理検査件数は、技師施行の超音波検査件数の増加を筆頭に検査室、院内各部署施行の検査共々増加を続けている。

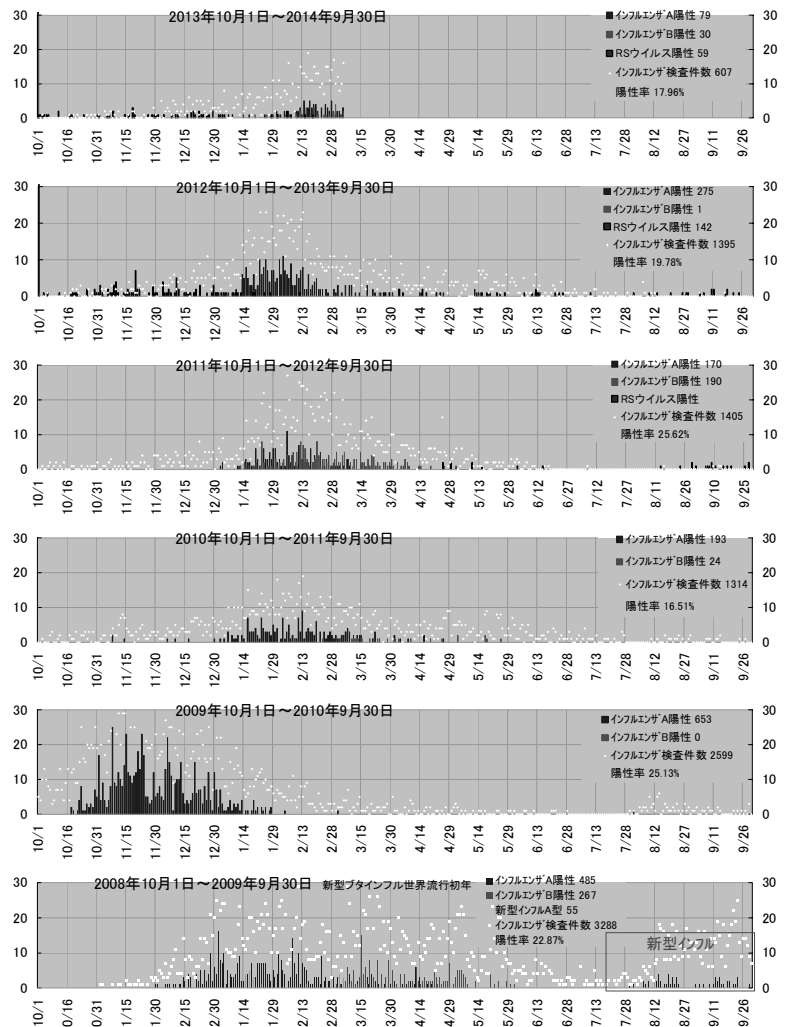
表1 検体検査件数

	2012	2013	増減率(%)
化学	1,257,461	1,227,743	97.64
血液	151,378	148,184	97.89
血清	74,145	71,161	95.98
一般	47,585	46,870	98.50
細菌	21,878	20,873	95.41
(迅速)	6,007	4,728	78.71
(一般菌)	15,871	16,145	101.73
輸血	12,846	12,556	97.74
委託	14,128	14,318	101.34
総計	1,579,421	1,541,705	97.61

表2 生理検査件数

		2012	2013	増減率(%)
生理検査室	心電図等	12,905	13,002	100.75
	(ホータブル)	1,037	928	89.49
	(シネアンキオ)	434	441	101.61
	超音波/技師	2,760	2,922	105.87
	超音波/医師	1,862	1,932	103.76
	小計	17,527	17,856	101.88
各部署	心電図等	6,327	6,692	105.77
	超音波	5,048	5,184	102.69
	小計	11,375	11,876	104.40
	総計	28,902	29,732	102.87

インフルエンザ検出状況



21. 薬 局

病棟業務関係では、薬剤管理指導業務で、ハイリスク薬の算定数は減少したが、全体的には大きく増加している。病棟薬剤業務実施加算の算定に伴い、病棟業務の時間を増やし、各担当薬剤師が精力的に入院患者の薬物療法に関与した結果と評価できる。

処方箋枚数

	H25	H24	前年比
入院処方箋	71,421	62,081	115.0%
外来(院内)	22,697	22,318	101.7%
院外処方箋	65,376	68,507	95.4%
院外発行率	74.23%	75.43%	98.4%

注射処方箋枚数

	H25	H24	前年比
注射処方箋(入院)	163,588	164,197	99.6%
注射処方箋(外来)	31,517	37,467	84.1%

薬剤管理指導業務

	H25	H24	前年比
指導人数	5,377	4,945	108.7%
指導回数	9,285	8,146	114.0%
通常薬請求件数	3,659	2,425	150.9%
ハイリスク薬請求件数	1,697	2,038	83.3%
麻薬管理指導加算件数	138	98	140.8%
退院時薬剤情報管理指導料算定件数	1,258	1,215	103.5%

病棟薬剤業務実施加算

	H25	H24	前年比
請求件数	2,167	1,576	137.5%

抗悪性腫瘍剤調製

	H25 (人数)	H25 (件数)	H24 (人数)	H24 (件数)	前年比 (人数)	前年比 (件数)
(入院)	2,368	4,334	2,162	4,486	109.5%	96.6%
(外来)	1,791	1,916	1,799	2,337	99.6%	82.0%

外来の服薬指導は、抗癌剤、麻薬使用患者への指導が増えたため大幅に増加した。

後発医薬品の使用割合は数量ベースで約36%まで増やしたが今後60%を目標にして切替を行なっていく予定である。

IVH調製

	H25	H24	前年比
調製本数(成人)	2,167	1,576	137.5%
調製本数(小児)	4,945	7,288	67.9%

製 剤

	H25	H24	前年比
一般製剤	64	61	104.9%
無菌製剤	30	28	107.1%
調製件数	3,106	2,788	111.4%

臨床試験・製造販売後調査

	H25	H24	前年比
臨床試験	0	0	—
製造販売後調査	34	45	75.6%

持参薬鑑別

	H25	H24	前年比
鑑別人数	7,356	6,739	109.2%
鑑別件数	11,095	9,924	111.8%

外来指導件数

	H25	H24	前年比
指導人数	99	46	215.2%

入院時面談件数

	H25	H24	前年比
面談人数	2,852	2,104	135.6%

22. リハビリテーションセンター

2013 リハビリテーションセンター臨床統計

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
理学療法	外来	72	72	68	69	73	98	103	104	135	118	126	1,107	
	入院	40	58	78	66	70	48	54	53	61	39	60	689	
	合計	1,713	1,669	1,709	1,730	1,739	1,747	1,893	1,658	1,331	1,844	1,578	1,551	20,162
作業療法	外来	398	455	484	353	396	494	400	308	313	264	261	4,524	
	入院	1,785	1,741	1,777	1,799	1,812	1,816	1,991	1,761	1,435	1,979	1,677	21,269	
	合計	438	513	562	419	466	460	542	454	361	374	303	321	5,213
言語聴覚療法	外来	197	211	201	168	166	207	203	177	198	185	198	2,279	
	入院	77	68	80	75	76	73	76	53	62	50	53	789	
	合計	617	543	480	566	512	624	817	681	501	645	544	543	7,073
摂食機能療法	外来	216	158	193	186	195	128	162	146	129	107	101	1,816	
	入院	814	754	681	734	678	792	1,024	884	678	843	729	9,352	
	合計	293	226	273	261	271	201	238	199	157	179	160	147	2,605
合計	外来	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	合計	175	167	199	203	223	169	253	258	177	288	250	188	2,550
合計	外来	17	19	17	14	32	48	48	35	27	20	33	346	
	入院	175	167	199	203	223	171	253	258	177	288	250	188	2,552
	合計	17	19	17	14	32	48	48	35	27	20	33	36	346
合計	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	合計	70	52	42	79	83	139	147	127	82	68	139	114	1,142
合計	外来	24	22	33	46	87	87	75	77	89	108	71	42	761
	入院	70	52	42	79	83	139	147	127	82	68	139	114	1,142
	合計	24	22	33	46	87	87	75	77	89	108	71	42	761
合計	外来	269	283	269	237	239	305	306	281	333	303	324	3,388	
	入院	117	126	158	141	146	135	124	107	115	111	92	1,478	
	合計	2,575	2,431	2,430	2,578	2,557	2,679	3,110	2,724	2,091	2,845	2,511	2,396	30,927
合計	外来	655	654	727	599	710	661	779	658	519	570	475	440	7,447
	入院	2,844	2,714	2,699	2,815	2,796	2,918	3,415	3,030	2,372	3,178	2,814	2,720	34,315
	合計	772	780	885	740	856	796	903	765	634	681	567	546	8,925

23. 栄 養 科

給 食 の 状 況

1. 栄養指導回数及び延人員

(単位：件、人)

区分 年度	胃腸病			肝臓病			高血圧			心臓病			糖尿		
	件数	患者	合計	件数	患者	合計	件数	患者	合計	件数	患者	合計	件数	患者	合計
23	623	623	934	10	10	6	12	12	10	22	24	24	306	306	424
24	481	481	699	15	15	5	17	17	16	33	63	63	302	302	404
25	465	465	715	19	19	6	119	119	78	197	79	79	259	259	369
区分	腎臓病			肥満			透析			その他			総計		
年度	件数	患者	合計	件数	患者	合計	件数	患者	合計	件数	患者	合計	件数	患者	合計
23	106	106	171	115	115	93	0	0	0	75	75	102	1,271	1,271	1,918
24	117	117	183	163	163	147	0	0	0	108	108	153	1,264	1,264	1,910
25	157	157	229	122	122	116	0	0	0	116	116	186	1,336	1,336	2,093

(単位：件、人)

2. 給食数

区分 年度	一般食	特別食	給食総数	一日平均給食人員	給食総数に対する特別食加算の割合
23	192,071	172,410 (内特別食加算 98,576)	364,481	998.6	27.0%
24	200,138	165,915 (内特別食加算 88,869)	368,920	1008.0	24.3%
25	198,831	172,053 (内特別食加算 95,616)	370,884	1021.4	25.8%

3. 主要特別食食数内訳

(単位：件)

区分 年度	塩制限食	水分制限食	透析食	塩分蛋白制限食	エネルギー指定食	エネルギー蛋白制限食	脂肪制限食	潰瘍食	胃切除食	学童幼児食	やわらかご飯食	高蛋白食	経流動食	管その他	計
23	4,169	4,169	10,655	5,674	30,383	8,643	2,722	1,611	3,682	8,746	10,077	33	27,640	58,375	172,410
24	9,311	9,311	8,911	5,581	24,707	7,403	2,158	870	2,099	12,638	9,966	137	20,218	61,916	165,915
25	11,088	11,088	7,137	5,953	32,610	6,817	2,509	1,647	2,459	9,174	10,625	0	21,366	60,668	172,053

24. 糖尿病委員会活動報告

メンバー紹介

医師：須田克幸・竹田文洋

臨床検査技師：伊藤奈穂 薬剤師：鎌田敬志 石川大介 栄養士：斎藤禎子 澤井寛子

助産師：後藤千恵 看護師：百瀬 幸 佐藤恵美 宅井さやか 斎藤まゆ 伊藤有紀子 秋葉 滯
若生有子 榎本真由美 高橋悠里 蓮井李奈 阿部優子 押井あけみ

1、定例委員会 毎月1回 開催 (第1火曜日)

2、糖尿病教室 毎月第2金曜日 14:00~15:00

期 日	内 容	講 師	参加者
4月12日	糖尿病って、どんな病気？/ゲームで糖尿病を学ぶ	看護師	5名
5月10日	糖尿病と高血圧 動脈硬化を早期にキャッチ	内科医師 検査技師	5名
6月14日	無理なく継続運動療法/庄内弁ラジオ体操	理学療法士 看護師	10名
7月12日	無理なく継続食事療法 運動時の水分補給のしかた	管理栄養士 看護師	4名
8月9日	糖尿病の薬物療法	薬剤師	5名
9月13日	糖尿病と皮膚病変 フットケアをしよう	皮膚科医師 看護師	10名
10月20日(日) 14:00~16:00	市民講座「糖尿病のつどい」 講師：須田克幸先生 テーマ：「糖尿病の基礎知識」 星野武彦先生 テーマ：「無理なく続ける運動療法」	委員全員対応	35名
11月8日	糖尿病腎症の発症と進行を防ぐ 感染予防とその対策	内科医師 看護師	5名
12月13日	糖尿病とストレス 年末年始の食事のしかた	臨床心理士 管理栄養士	3名
1月10日	妊娠と糖尿病 家族全員で生活改善して糖尿病予防	助産師 看護師	3名
2月14日	糖尿病に関連した目の病気 冬場の室内運動	看護師 理学療法士	4名
3月11日	糖尿病と歯周病/口腔ケアの実践	歯科衛生士 看護師	4名

3、糖尿病だより(患者向け広報)発行：月1回

平成26年3月までで第218号となった。

4、院内研修会

期 日	内 容
平成25年6月3日(火) 17:45~18:45 講堂	「院内ヒヤリ・ハット報告からの事例学習会」 委員会主催
平成26年1月29日(水) 18:00~19:00 201会議室	「コーチング研修会」
平成26年2月4日(火) 18:00~19:00 講堂	「カーボカウントを使った食事療法と食品交換表の改定ポイント」 講師：JA秋田厚生連平鹿総合病院技師長 木村京子先生

各会とも参加者は前年度より多く、コーチングに関しては、全コメディカルから興味が得られ、継続に至った。

5、院外発表

◎第4回庄内薬剤師糖尿病講演会 2013年6月29日 鶴岡
ワンタッチウルトラビュー・ワンタッチペン導入時のアンケート調査

◎第2回日本くすりと糖尿病学会学術集会 2013年11月23日・24日 東京
「回収した血糖測定器および穿刺器具からみる今後の患者指導」 鎌田敬志

◎第18回日本糖尿病教育・看護学会学術集会 2013年9月22日・23日 横浜
示説「フットケア外来開設から10ヶ月後のHbA1cの変化からみた血糖管理の評価」 百瀬 幸

6、その他の活動

- ・フットケア外来を内科外来及び血液浄化センターにて実施し、内科外来延べ50数件/年、血液浄化センター述べ120数件/年でセルフケア、悪化予防が図られている。
- ・院内での血糖測定器をSMBG機器からPOCT機器に変更を進め、実施指導を行う。
- ・「糖尿病看護マニュアル」の改訂を行い、関連部署へ配布する。
- ・今年度より助産師を委員会メンバーに加え、妊娠糖尿病および糖尿病合併妊娠患者指導を糖尿病教室、入院棟内で実施している。
- ・外来において、「糖尿病透析予防加算」算定に向けた体制整備を行っている。

<学会・研修会への参加>

- ・第12回糖尿病学の進歩 2013年2月15日・16日 四日市市 薬局 石川大介
- ・第23回糖尿病診療—最新の動向 医師・医療スタッフ向け研修会 東京 6西 阿部優子
- ・第56回日本糖尿病年次学術集会 2013年5月16日~18日 熊本 中央検査科 伊藤奈穂
- ・第28回日本糖尿病合併症学会 2013年9月13・14日 旭川 8西 秋葉 滯
- ・糖尿病重症化予防(フットケア)講習会 2013年9月 血液浄化療法センター 吉田
- ・第29回日本糖尿病・妊娠学会学術総会 2013年11月1日・2日 岐阜 4西 後藤千恵
- ・第14回日本糖尿病療養指導士受験用講習会 2013年11月3日・4日 東京 6西 阿部優子
- ・糖尿病重症化予防(フットケア)講習会 2013年12月 血液浄化療法センター 西田
- ・糖尿病療養指導士更新者講習会 2013年12月21日・22日 内科外来 百瀬 幸

25. NST (栄養サポートチーム：Nutrition Support Team) 委員会活動報告

1. NST委員会 委員

二瓶幸栄（医師） 安宅 謙（医師） 井上裕子（看護師） 秋野博子（看護師） 石井 佳（看護師）
 梅本貴子（看護師） 富樫悠奈（看護師） 田中大輔（薬剤師） 佐藤拓也（薬剤師）
 富樫博子（管理栄養士） 澤井寛子（管理栄養士） 鈴木貴志（臨床検査技師）
 百瀬知依（言語聴覚士） 鶴巻佳那（歯科衛生士）

2. 活動内容

NST委員会は、主に栄養に関わる管理、提言、啓蒙などの活動を行っている。平成17年より本格的な活動を開始し、引き続き回診・レクチャーなどを中心に活動を行った。

● スクリーニング（入院時初期評価）

入院患者に対し、スクリーニングと栄養管理計画書

2013.1～2013.12までのスクリーニング実施数9,927名、NST介入依頼数は47名であった。

NST依頼患者の平均年齢76.7歳（男女比1：1）であった。

介入時の栄養状態が低下しているほど死亡の転帰をたどる症例が多かった。

介入時栄養状態と最終転帰について

介入時栄養不良なし	2 (4%)	自 宅 退 院	1	転 院	1
介入時軽度栄養不良	13 (28%)	自 宅・施設退院	5	転 院	7
		死 亡	0	そ の 他	0
介入時中等度栄養不良	27 (57%)	自 宅・施設退院	11	転 院	4
		死 亡	11	そ の 他	1
介入時高度栄養不良	5 (11%)	自 宅 退 院	1	転 院	2
		死 亡	2	そ の 他	0

● 回診（毎週水曜日）

定例回診数 50回

新規紹介患者 47名（男性24名、女性23名）

回診延べ患者 237名

平均年齢 76.7歳（9-94）

うち褥瘡保有患者 11名

● ワーキンググループ活動

- ・ガイドライン：経管栄養・嚥下・口腔ケア・静脈栄養について運用中。
- ・口腔ケアコンサルテーション業務：コンサルト件数は延べ491名だった。

● 広報活動

- ・荘内病院ホームページ

● 教育活動（セミナー・学習会など）

院内学習会

- 5月23日 「NSTについて」「栄養評価 No.1」
- 7月5日 「経管栄養の栄養管理について」～胃瘻・腸瘻の安全な取り組みについて～(看護部研修会)
- 7月18日 「褥瘡のためのスキンケアとリスクアセスメント」「栄養評価 No.2」
- 9月3日 「栄養評価 No.3」
- 9月20日 「胃管カテーテル挿入の実際」(看護部研修会)
- 10月4日 「創傷被服剤の選択ポイント」 「経腸栄養」
- 11月18日 「静脈栄養」「褥瘡と栄養管理」
- 11月19日 「経鼻胃管挿入について」(医療安全研修会と合同にて)
- 12月3日 「口腔ケア」 「摂食嚥下障害」

NST専門療法士資格取得のための実地修練の実施

期間2013年9月17日～10月17日

山形済生病院から 管理栄養士1名

鶴岡市立荘内病院から看護師2名 管理栄養士1名

3. NCM小委員会

栄養管理実施加算の適正な実施と、多職種による適切な栄養管理の実施を目的とする院内栄養管理システムの導入・運用についてNCM小委員会がNST委員会内に設置されている。

入院患者に対する「NST初期評価シート」を電子カルテ上で入力し、「栄養管理計画書」は、原則全入院患者に対して管理栄養士が作成し、入院棟における定期的な評価（栄養カンファレンス）を多職種で実施している。

4. 学会・研究会・セミナー（参加・発表など）

- 平成25年1月12日・13日 第16回 日本病態栄養学会（京都） 富樫博子（管理栄養士）
- 平成25年2月21日・22日 第28回 日本静脈経腸栄養学会（金沢）
井上裕子・秋野博子・石井佳（看護師）・富樫博子（管理栄養士）
- 平成25年7月20日・21日 JSPEN看護部会 看護師トレーニングセミナー 井上裕子（看護師）
- 平成25年10月5日 第10回 日本在宅静脈経腸栄養研究会（東京） 富樫博子（管理栄養士）
- 平成25年12月13日 第11回 山形NSTセミナー（山形市）
「看護師によるNST専従業務の現状」石井 佳（看護師）
- 平成25年12月14日 第28回 東北静脈経腸栄養研究会（仙台） 石井 佳（看護師）

5. 今後の課題

- 1) NST基準の栄養不良判定の作成と提示、抽出、フィードバック
- 2) 各部門・各職種の活動内容の評価・発表
- 3) コンサルテーション システムの確立
- 4) 褥瘡回診患者のNST回診（NSTスタッフの参加方法と記録・提言内容）
- 5) 退院後の栄養管理継続のための地域連携
- 6) NSTスタッフ、職員の啓蒙とスタッフのレベルアップ

26. 緩和医療委員会の活動報告

1、メンバー紹介（平成26年6月現在）

・緩和医療委員会

鈴木聡医師（委員長）、阿部和人薬剤師（副委員長）、和泉典子医師、大井直子薬剤師、白幡延浩理学療法士、富樫博子栄養士、佐藤千鶴子看護師、富樫清看護師、阿部仁美看護師、阿部美知子看護師、上林沙希子看護師、竹内梨紗看護師、佐々木孔美看護師、松浦直美看護師、風間千沙子看護師



2、緩和医療委員会の活動内容

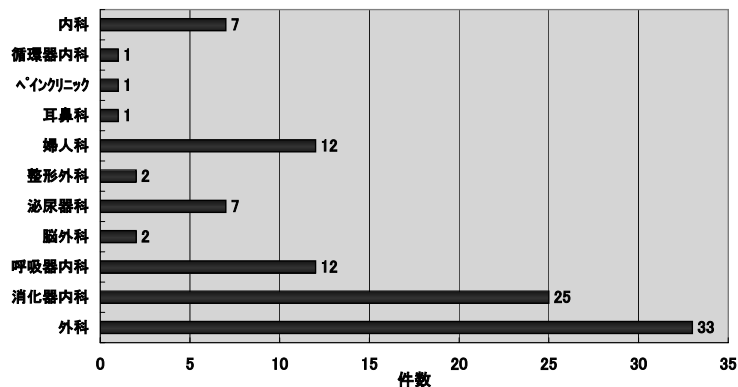
- ・患者・家族会の一環として、4月にお花見会、8月に花火鑑賞会、2月にひな祭り会を開催
- ・緩和ケアチームが介入し亡くなられた患者家族に対して、7、11、3月にグリーフカード送付
- ・山形県がん診療に携る医師に対する緩和ケア研修会（PEACEプロジェクト）を10月29、30日に開催

3、緩和ケア依頼件数

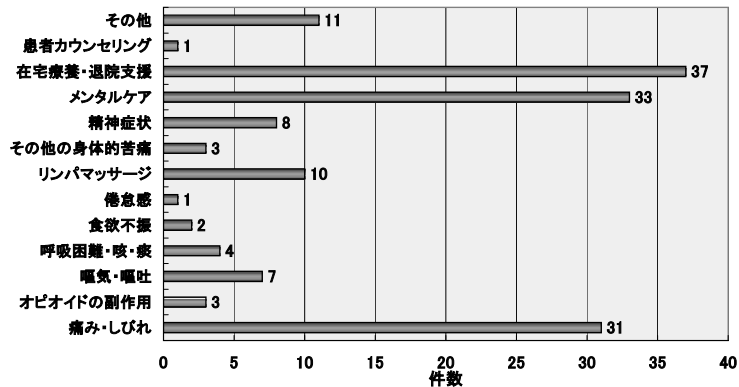
平成25年度の緩和ケア依頼人数は103人であった。依頼科別では外科33人、消化器内科25人、呼吸器内科12人、婦人科12人の順となっていた。また昨年依頼のなかった耳鼻科からの依頼もあった。依頼件数は一人で複数の依頼も多く151件で、依頼内容については痛み・しびれ、精神症状、在宅療養・退院支援、メンタルケアなど多岐にわたっていた。詳細は以下のグラフに示す。

《グラフ》

平成25年度緩和ケア依頼科別件数



平成25年度緩和ケア依頼内容別件数



4. 講演会・研究会

- 医療連携【こころとからだのケア】セミナー
 (平成25年5月23日 鶴岡総合福祉センター にこふる)
 「緩和ケアチーム医師としてのがん疼痛治療の経験」 鶴岡市立荘内病院 内科 和泉 典子
- 第18回日本緩和医療学会学術大会
 (平成25年6月21、22日 パシフィコ横浜)
 ポスター発表 「がん患者遺族への支援のあり方 ～遺族アンケートを通して～」 鶴岡市立荘内病院 緩和ケアチーム 釧持 朝子
 ポスター発表 「口腔ケアにローズウッドオイルを取り入れた効果と課題」 鶴岡市立荘内病院 緩和ケアチーム 阿部 仁美
 ポスター発表 「看取り時期のスキんケアラウンドの再考 ～入院棟看護師へのアンケートから～」 鶴岡市立荘内病院 緩和ケアチーム 中野 要
- 第8回庄内緩和医療研究会
 (平成25年8月10日 東京第一ホテル鶴岡 鳳凰の間)
 「ローズウッドオイルを使用した口腔ケアの取り組み」 鶴岡市立荘内病院 看護部 五十嵐 かずみ
- 第2回緩和ケアを学ぼう会
 (平成25年9月2日 鶴岡市立荘内病院3階講堂)
 「終末期の意思決定支援を考える(がん・認知症・高齢者など)」 鶴岡市立荘内病院 緩和ケアチーム 和泉 典子
- 第7回日本緩和医療薬学会
 (平成25年9月14～16日 幕張メッセ)
 口演 「外来患者に対するオピオイド新規導入時の服薬指導と調剤薬局への情報提供の取り組み」 鶴岡市立荘内病院 緩和ケアチーム 阿部 和人
- 第23回山形県緩和医療研究会
 (平成25年9月28日 鶴岡総合福祉センター にこふる)
 「緩和ケアチームに紹介された患者の状況や転帰から見た当院および地域における緩和ケアの変化」 鶴岡市立荘内病院 緩和ケアチーム 和泉 典子
- 第16回日本在宅医学会
 (平成26年3月1、2日 グランドホテル浜松)
 口演 「在宅療養中のがん患者に対する病院緩和ケアチーム専従医師の訪問状況」 鶴岡市立荘内病院 緩和ケアチーム 和泉 典子

27. 褥瘡予防対策委員会の活動報告

1. メンバー紹介（平成25年4月現在）

褥瘡対策委員会

工藤勝秀（委員長：医師） 梅本貴子（副委員長：皮膚・排泄ケア認定看護師） 石原 良（医師）
 小島研司（医師） 菅原 稔（医事） 富樫とく子（看護師） 渡部 幸（看護師） 百瀬 幸（看護師）
 五十嵐可奈子（看護師） 富樫敦子（薬剤師、褥瘡学会認定師） 澤井寛子（管理栄養士）
 小林 拓（理学療法士） 阿部興志樹（総務） 事務局：禰津 緑
 平成25年10月～ 國分広志（薬剤師） 工藤優子（管理栄養士）

NST・褥瘡対策リンクナース

武田しのぶ 梅木香奈子 佐藤 南 栗本こすも 菅原紀子 佐藤節子 工藤真紀子 中村妃菜
 中條由美 土門明菜 渡部美佳 齋藤智香 本間美由紀

2. 褥瘡予防対策委員会の組織

本委員会は、迅速な褥瘡予防対策・強化を図ると共に、適切な褥瘡ケアを提供し早期改善・早期治癒・在宅を視野においた連携強化を目標に活動している。リンクナースを委員会の下部組織として、褥瘡リスクアセスメントをはじめとし、体圧分散寝具の選択、ケアマニュアルの評価、現場スタッフ教育を行い、褥瘡回診チームはベッドサイドでの総合的なケアを実践し活動している。

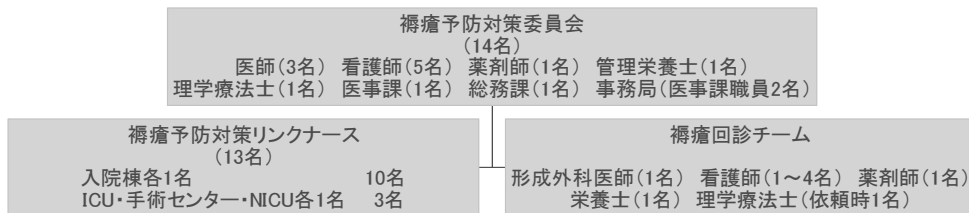


図1 組織図

3. 褥瘡委員会の活動

○褥瘡予防対策委員会

- ・年5回 委員会開催（定例委員会：4回、臨時委員会：1回）
- ・年2回 褥瘡研修会
- ・年3回 NST・褥瘡合同院内学習会
- ・年5回「WCT Times」の発行（No1～5）
- ・月1回 褥瘡予防・スキンケアアラウンド

○褥瘡回診チーム

- ・週1回 褥瘡回診・カンファレンス

○褥瘡予防対策リンクナース

- ・月1回 会議
- ・月1回 褥瘡予防・スキンケアアラウンド
- ・褥瘡回診同行
- ・各入院棟専任褥瘡管理者

6. 平成25年度褥瘡に関するデータ報告と分析

- 褥瘡有病率：6.32%（前年度7.17%）
（日本褥瘡学会2010年調査：2.94%）
- 褥瘡推定発生率：1.31%（前年度1.83%）
（日本褥瘡学会2010年調査：1.40%）
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算：1007 件・褥瘡回診：12.9人/週

※有病率（%）＝ 褥瘡保有者/調査日の入院患者数（24時時点+退院患者）×100

発生率（%）＝ 入院後褥瘡発生患者数/調査日の入院患者数（24時時点+退院患者）×100

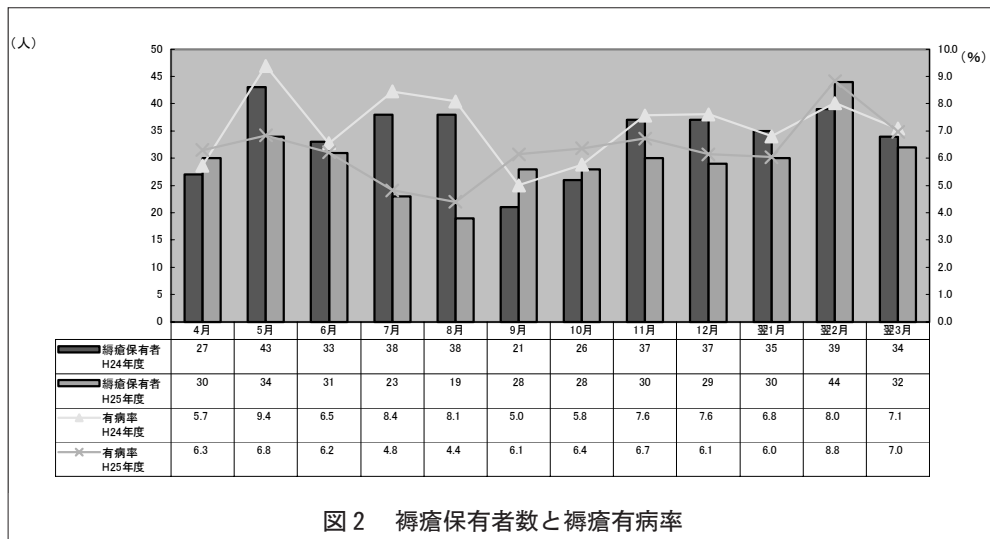


図2 褥瘡保有者数と褥瘡有病率

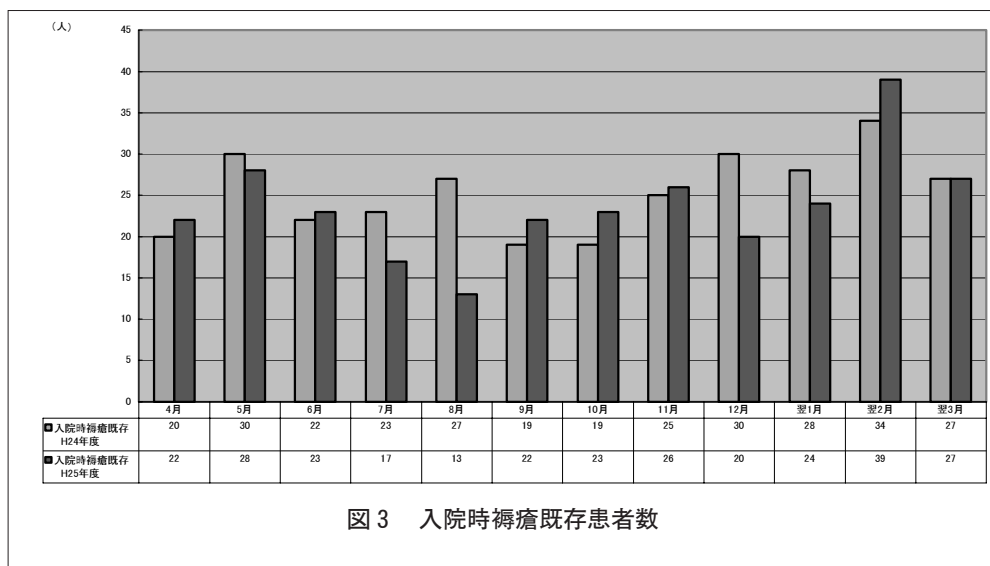


図3 入院時褥瘡既存患者数

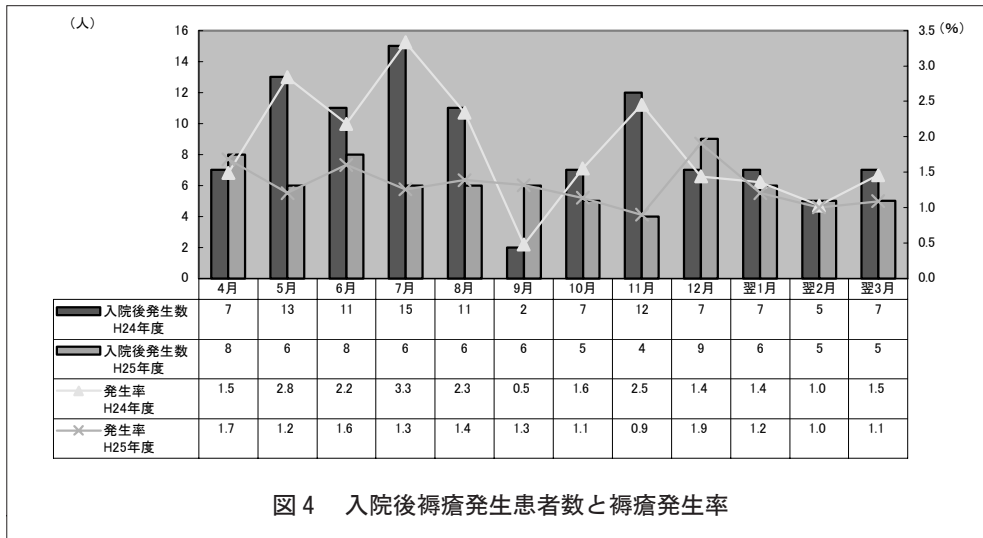


図4 入院後褥瘡発生患者数と褥瘡発生率

前年度比で、有病率は、7.18%から6.32%へ減少し、入院後発生率も、1.31%（前年度1.83%）と当院の指標である1.77%を大幅に下回った。平成24年度から、発生予防を目的とする「褥瘡・予防スキンケアラウンド」を開始し、NST委員も含めた多職種連携による予防対策に取り組んだことや、各部署のリンクナースの働きかけにより褥瘡予防に対する意識が向上している結果が、褥瘡新規発生率の低下につながった。引き続き多職種との連携を深め褥瘡予防対策の構築を目指していきたい。

7. 今後の課題

1. 体圧分散寝具・高機能エアマット効果的な運用と適正配置
2. ポジショニングクッションの充実
3. 地域連携強化に向けた退院前カンファレンスの定着
4. 在宅につながる情報の共有化
5. スキンケアの標準化

28. ICT（感染対策チーム：Infection Control Team）活動報告

1. メンバー紹介

● ICT（◎委員長 ○副委員長）

【医師】◎鈴木聡（ICD）吉田幸恵 【検査技師】中嶋知子、大塚隼人

【薬剤師】土屋宏美（感染制御認定薬剤師）草島宏平 【作業療法士】石橋史織、佐藤麻人

【看護師】○若松由紀子（感染管理認定看護師）、大島幸子、栗田香、加藤幸子、
佐藤さおり、庄司敦子

● 感染対策リンクナース委員会

大島幸子（委員長）、山本麻衣、阿部礼子、早川由紀、石川由紀、長谷川智子、
小南亜矢子、今野里沙、佐藤靖子、三浦春佳、難波亮子、本間春圭、佐藤靖子、
飯田愛、小南志保、豊田みゆき、八向せつ

● 感染対策リンクスタッフ

【臨床工学技士】長谷川幸人 【放射線技師】富樫峰子 【栄養士】齋藤禎子

【総務課用度係】五十嵐雅也 【総務課施設係】齋藤剛志

2. 地域連携および院外活動

項目	活動内容
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・年4回 加算2施設とカンファレンス（鶴岡病院、余目病院） ・年2回 加算1施設と相互ラウンド：日本海総合病院、新庄病院 ・湯田川リハビリテーション病院 感染対策研修会（40名） ・鶴岡病院感染対策研修会（30名） ・みつわ会 感染対策研修会（150名） ・くしびき健やかセンター感染対策研修会（20名） ・老人ホーム ひまわり 感染対策研修会（40名）
学会など発表	<ul style="list-style-type: none"> ・医療マネジメント学会発表 「手術センターにおけるゴーグル着用の取り組み」飯田 愛 ・山形県インфекションコントロール研究会 「当院における血液培養検査の現状と2セット採取の有用性」大塚 隼人 ・庄内感染対策セミナー 「内視鏡検査から洗浄に至るまでの汚染飛散の視覚的検証」大島 幸子 「感染防止のための地域医療機関合同カンファレンスの評価」若松 由紀子 ・山形県自治体病院講演会 「清拭タオルのセレウス菌汚染に対する感染対策の検討」若松 由紀子

3. 院内活動

項目	活動内容
サーベイランス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 抗菌薬適正使用状況 ※6月～ ■ 微生物（MRSA・CD・MDRP・ESBL）※7月、2月フィードバック ■ 中心静脈カテーテル関連血流感染（集中治療センター）※11月フィードバック ■ 人工呼吸器関連肺炎（集中治療センター）※11月VAP事例検討会 ■ 手術部位感染（整形外科108症例）※フィードバック 3月 ■ 手術部位感染（外科388症例） ※フィードバック 10月 ■ アウトブレイク対応（12月、3月 疥癬アウトブレイク）
ラウンド	<p>毎週火曜 血液髄液培養陽性者および耐性菌検出患者ラウンド</p> <p>年間定期 入院棟12部署、中央/外来 8 部署、コメディカル 6 部署、委託業者 4 部署</p>
職員教育	<p>【全職員対象】</p> <p>6月 講演会「医療関係者と患者を守る予防接種戦略」267名 (新潟大学 斉藤昭彦 先生)</p> <p>1月 インфекションコントロール活動報告会 219名</p> <p>【医師対象】</p> <p>9月 医局会「CD関連下痢症の治療について」</p> <p>10月 医局会「当院の血液培養検査の現状と2セット採取の有用性」</p> <p>1月 医局会「セレウス菌による血流感染防止」「手術時手洗いラビング法」</p> <p>【看護師、看護補助者対象】</p> <p>5月 「N95マスクの正しい着用方法を学ぼう」</p> <p>12月 「セレウス菌による血流感染防止について」</p>
広報活動	ICTニュース発行（5月、8月、1月）
マニュアルの作成・改訂	<p>4月 「鳥インフルエンザA（H7N9）疑い患者対応フロー」</p> <p>「IX. 感染症情報の管理900 - 901」「届け出が必要な感染症」</p> <p>「抗MRSA薬血中濃度測定」「TDMチェック用紙」</p> <p>7月 「ウロバック尿の回収」「患者指導パンフレット（MRSA・CD用）」</p> <p>9月 「接触感染予防策」「MRSA」「MDRP」「ESBL」「CDI」</p> <p>10月 「腸管出血性大腸菌感染症」</p> <p>1月 「ベッド周囲の清掃」</p>
感染対策の見直し・導入	<p>7月 N95マスク「ハイラック」の一部導入</p> <p>9月 布製清拭タオルの一時中止、管理方法検討、1月使用再開</p> <p>1月 手術センター・内視鏡の吸引器フルディスポ化</p> <p>2月 携帯用ウェルフォーム導入（リハ・ER・ウェルパスで手荒れする職員）</p>

3. おもな活動について

〈微生物サーベイランス〉

各種耐性菌・分離菌の発生動向を監視し、院内感染の発生を最小限に抑えることを目的としている。具体的には微生物検出状況についての週報・月報、耐性菌検出状況の把握、アンチバイオグラムの作成などである。耐性菌などの監視対象菌が検出された場合、その情報は検査科よりICTメンバーにメールで報告される。監視対象菌の検出数が病棟毎に設定された一定の閾値（ベースライン）を上回った場合、アウトブレイクと判断し、ICTがその病棟のラウンドを実施、感染対策における助言や注意喚起を行っている。また年1回アンチバイオグラム（図1、一部抜粋）を外来・入院別に作成し、医師などに配布している。今後も定期的に配布し、抗菌薬選択の一助になればと考えている。

2013年 アンチバイオグラム 〈入院〉		作成条件：データ集計は1年毎とし、初回検出の検体を集計の対象とした 集計期間：20130101～20131231(検体No.1～6667)																
★表の数値はその菌に対するS(感性)の%です。																		
◆腸内細菌(グラム陰性桿菌)																		
菌名	ABPC	PIPC	CCL	CEZ	CTM	CTX	CAZ	CPR	CFPN	CMZ	FMOX	IPM	A/C	C/S	AZT	AMK	GM	MIN
ESCHERICHIA COLI	63	63	88	87	92	92	92	92	91	100	100	100	91	98	92	99	89	9
KLEBSIELLA PNEUMONIA	3	60	95	94	95	95	95	95	93	100	100	100	98	97	95	100	98	9
KLEBSIELLA OXYTOCA	0	41	93	55	93	93	93	93	93	100	100	100	93	93	93	100	100	9
SERRATIA MARCESCENS	4	70	0	0	0	74	67	89	55	89	59	100	0	89	82	100	100	9
ENTEROBACTER CLOACAE	5	84	0	0	5	84	84	95	82	5	11	100	0	90	84	100	100	9
ENTEROBACTER AEROGEN	0	83	0	0	28	83	78	100	93	6	6	100	0	100	100	100	100	10
PROTEUS MIRABILIS	92	92	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	8
PROTEUS VULGARIS	0	67	17	17	17	83	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	6
PROVIDENCIA RETTGERI	100	100	50	50	50	100	50	100	100	100	100		0	100	100	100	100	5
MORGANELLA MORGANII	0	86	0	0	0	86	100	79	90	100	100	100	14	100	100	100	93	6
ENTEROBACTER FREUNDII	22	70	11	11	20	70	70	100	70	66	92	100	11	80	67	100	100	8

図1. 2013年アンチバイオグラム一部抜粋（入院患者）

〈疥癬アウトブレイクへの対応〉

平成25年11月、6西入院棟において看護師9名と患者2名が疥癬疑いと診断された。発端者は10月初旬より落屑や肥厚などの皮膚症状があった患者と推定した。看護師は10月下旬頃から湿疹や痒みを自覚しており、すぐにアウトブレイクと判断し対応を開始した。

ICTは、6西入院棟スタッフと協力し、感染機会のあった患者や職員をリストアップし、発生状況や接触状況を把握しながら、有症者に対する疥癬治療と接触感染対策、無症状者に対する皮膚科検診と予防的治療、患者や職員への情報提供を行った。しかし12月には退院患者からの発生が増加し、地域への影響が懸念されたため、開業医の先生方や転院施設にも早期発見や情報提供などの協力を依頼した。その結果、2月末に疥癬アウトブレイクは終息を迎えることができた。

今回、職員15名、患者32名が疥癬を発症するという大規模なアウトブレイクに至ってしまった。「発端患者および職員の疥癬発見が遅れたこと」「皮膚症状のある患者に対する標準予防策が遵守できていなかったこと」が大きな要因である。二度とこのような事態を起こすことのないよう、対策を徹底していかなければならない。

〈インフェクションコントロール活動報告会〉

今年度は以下の4つの演題報告と、感染防止についてのクイズを行いました。219名の多数の方に参加していただき、改めて感染対策に対する高い意識を高める機会となりました。

各部署からの活動報告

- * 検査科・・・「地域で取り組む感染対策の見直し～合同カンファレンスをとおして～」
- * 内視鏡センター・・・「内視鏡検査における防護具の重要性の検証」
- * 6西入院棟・・・「疥癬アウトブレイクから学んだこと！」
- * 皮膚科・・・「疥癬2013-14」

29. 呼吸サポートチーム（RST）活動報告

1. メンバー紹介

・RST

正岡俊明（呼吸器外科） 岸 正人（麻酔科） 渡部直人（麻酔科） 星野芳史（呼吸器科）
 富樫恭子（医療安全管理者） 渡部まゆみ（集中治療センター看護師）
 齋藤由美（7東入院棟看護師） 辻村りか（集中治療センター看護師）
 佐藤慎吾（集中治療センター看護師） 長谷川幸人（臨床工学技士） 齋藤加恵（理学療法士）
 田中大輔（薬剤師）

・RSTリンクスタッフ

安宅 謙（腎臓内科） 山岸格史（呼吸器科） 佐藤知春（4東入院棟看護師）
 鈴木大地（6西入院棟看護師） 松浦直美（7東入院棟看護師） 渡会美紀（7西入院棟看護師）
 大滝まり子（8東入院棟看護師） 五十嵐沙知（手術センター看護師） 富樫博子（栄養士）
 白幡延浩（理学療法士） 石川ひとみ（臨床検査技師）

2. RST介入依頼件数および人工呼吸器患者の動向

当院における、平成25年1月から12月までの人工呼吸器装着患者は208名で、人工呼吸器使用期間は1日から装着中の患者を含め最長195日で平均は7.1日、中央値2日でした。人工呼吸器患者の入院期間は死亡退院を含める1日から現在入院中の患者を含め最長195日で平均36.5日、中央値29日でした。

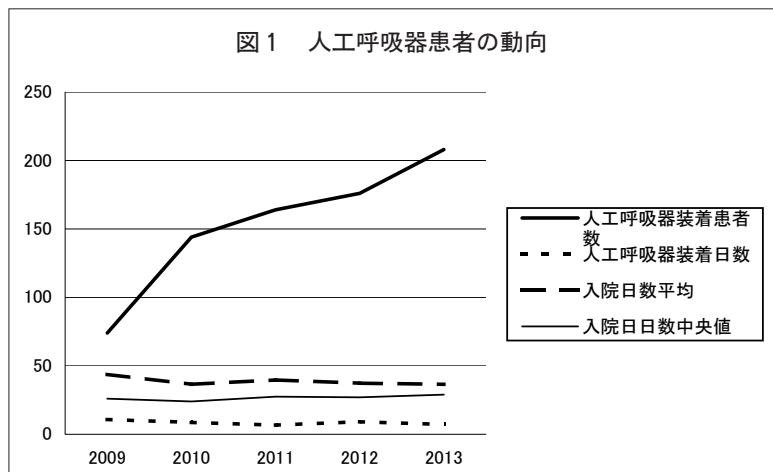
2009年から2013年での人工呼吸器装着患者数はこの5年間で最も多い208名となり増加の傾向にあります。又、人工呼吸器装着日数：6～10日、入院日数中央値：36～43日、入院日数中央値：24～29日と大きな変化はありませんでした（図1）。

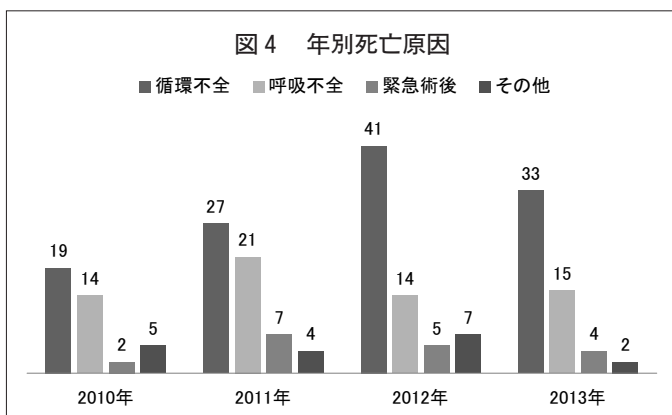
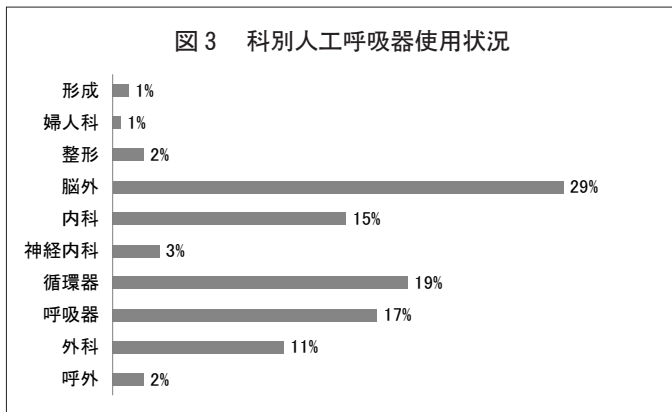
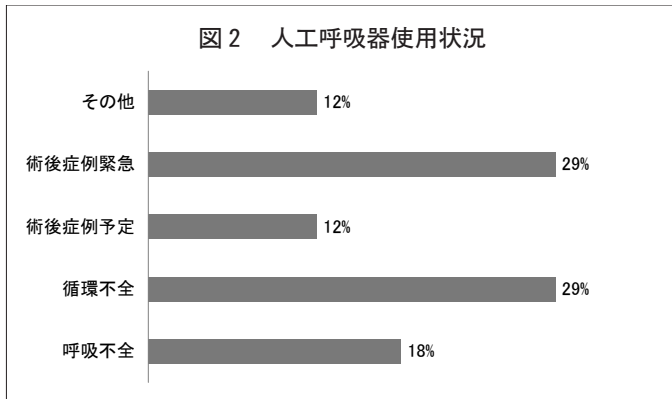
このことから、人工呼吸器装着日数や入院日数などは変化がないことから2009年から行っている口腔ケア実施の徹底やVAP予防が大きく寄与していると考えました。

人工呼吸器使用状況は、緊急術後症例と循環不全が29%で、次いで呼吸不全が18%でした（図2）。概ね過去5年間で変わらず、緊急術後症例と循環不全の人工呼吸器使用が多い傾向となっています。

科別人工呼吸器使用状況では例年通り、脳神経外科の使用が多く、ついで外科・呼吸器内科・循環器科・内科の4科の使用が多い傾向でした（図3）。

脳神経外科ではICD・SDH・SAHによる開頭術(coil含む)の緊急症例が50%、外科では45%が消化管穿孔・閉塞の疾患、呼吸器科では呼吸不全における症例が60%を占めておりその中でも感染に起因する症



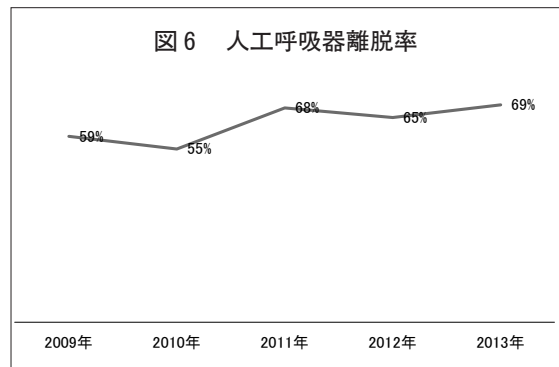
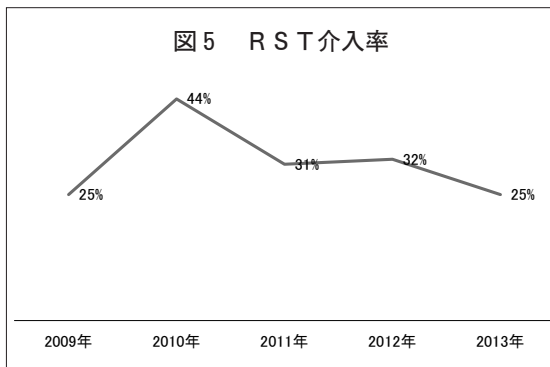


例が32%、ついでCOPDが16%でした。循環器科では循環不全症例が85%でうっ血性心不全が45%、心停止後が25%でした。内科においても循環器科同様に80%が循環不全に起因する疾患で、心停止後の割合が74%と大半を占めていました。2012年では循環器科での心停止後症例が多かったが2013年ではうっ血性心不全の症例が増加していました。

また、2013年の人工呼吸器装着患者の死亡者数は54名で昨年と同様、循環不全が原因の多くを占めていました(図4)。その内の50%は蘇生に成功した心停止でした。4年間の経過ですが突然死の原因である心臓に起因する内因死が2012年と比べると減少傾向にありました。その他の死亡原因は大きな変化が見られませんでした。

RST介入率(図5)は、全体の呼吸器使用患者の25%でした。昨年と比べ介入率が低くなっています。介入率の低下の原因は早期抜管が多いこと、早期の死亡退院が大半をしめており介入に至るまでもない症例が多かったことが考えられます。また、介入期間は2日から最大29日間と長く介入していた患者もいますが平均で9.2日、中央値で7日でした。人工呼吸器離脱率(図6)は2009年からの5年間のデータでは6割程度であり、残り4割の大半は死亡退院しておりその半数は蘇生に成功した心停止での死亡退院でした。

今後はRASSを併用したせん妄評価(Confusion Assessment Method for the ICU: CAM-ICU)の導入を進めていき患者の予後が改善できるようにサポートしていきます。また、痛みを客観的に評価することは難しいのですが、さまざまな評価スケールが開発されており、その中で表情、上肢の動き、人工呼吸器との同調性という3項目について、それぞれ4点ずつスコアをつけて満点が12点になるスケールで人工呼吸中でコミュニケーションを十分にとれない患者でも、疼痛を評価できる(Behavioral Pain Scale: BPS)の導入も検討していきます。



3. RST委員会活動内容

① 人工呼吸器離脱プロトコル作成

山形大学医学部附属病院の集中治療部で行われている、「人工呼吸器設定の基本方針」「人工呼吸器離脱プロトコル」を参考し、荘内病院版に変更し作成を行い運用している。

② ハイフローセラピー（高流量酸素療法）

ネーザルハイフロー：Nasal High Flow（NHF）導入に伴い、換気設定方法、離脱基準、中止基準、点検表の作成を行い運用している。

4. RSTリンクスタッフ活動報告

① 新人教育

5月20日 新人の看護師を対象に、「周術期呼吸ケア」の学習会を実施した。

② 症例検討会の実施

委員会時に、各月の担当者が症例を提出し、委員会内で検討し入院棟にフィードバックしている。様々な症例をとおりリンクスタッフの知識向上につなげている。

③ 呼吸ケアマニュアルの作成

人工呼吸器ケア関連のマニュアル作成。「人工呼吸の基本」「挿管の介助」「人工呼吸器装着患者の観察とケア」「せん妄予防 鎮静・鎮痛」「呼吸リハビリテーション」「NPPV」を作成し、呼吸ケアマニュアルに追加した。

以上のことを実施し、ケアの統一を図りスタッフへの意識付けに貢献できました。

5. 講演会

テーマ：①人工呼吸器管理に必要な呼吸生理

②人工呼吸器の目的と意義

講師：コヴィディエンジャパン株式会社 日比野 聡 様

講演日：平成25年5月16日（木）18：00～19：00 参加人数：68名

6. 3学会合同呼吸療法認定士

- 平成25年 第18回呼吸療法認定士取得
佐藤慎吾（看護師）

VI 2013年 荘内病院におけるがん登録の現況報告

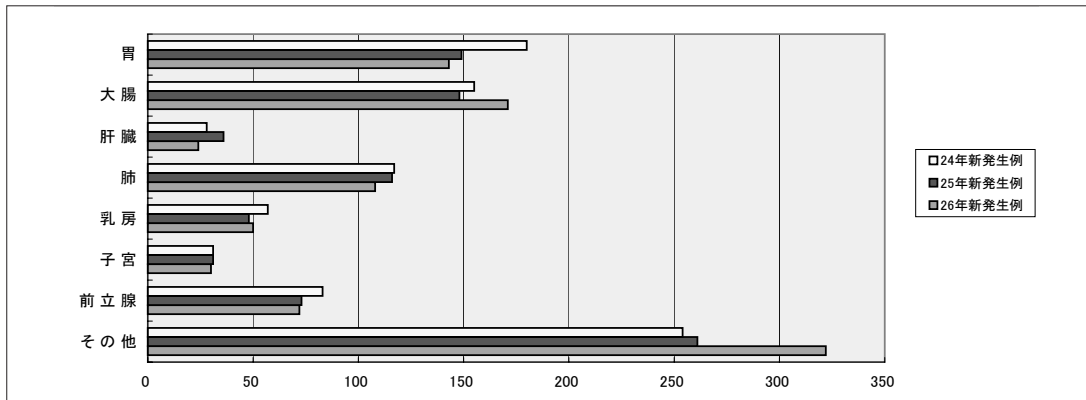
地域がん登録届出件数

性別	24年届出	25年届出	26年届出
男	528	520	532
女	393	362	398
総 数	921	882	930

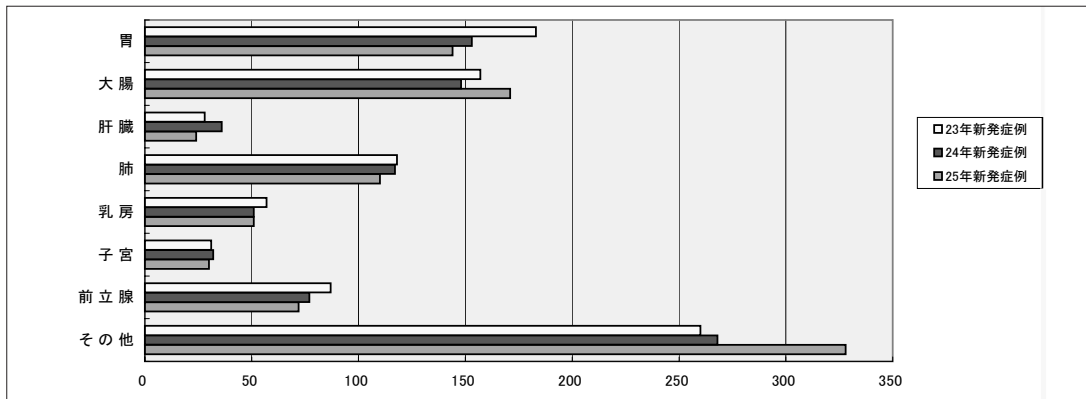
部位別届出件数

部 位	24年新発症例	24年全症例	25年新発症例	25年全症例	26年新発症例	26年全症例
胃	180	183	149	153	143	144
大腸	155	157	148	148	171	171
肝臓	28	28	36	36	24	24
肺	117	118	116	117	108	110
乳房	57	57	48	51	50	51
子宮	31	31	31	32	30	30
前立腺	83	87	73	77	72	72
その他	254	260	261	268	322	328
総 数	905	921	862	882	920	930

がん部位別新発症例件届出数



がん部位別全症例件届出数



10歳年齢階級別登録数

(26年届出新発生例)

部 位	0-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-	合 計
C02-06 口唇・口腔	1	1	0	2	4	1	0	0	9
C07-08 大唾液腺	0	0	0	0	0	0	0	1	1
C15 食道	0	0	0	2	7	10	6	0	25
C16 胃	0	0	2	9	30	57	39	6	143
C17 小腸	0	1	0	0	1	2	0	0	4
C18-19 結腸	0	0	3	15	30	38	38	7	131
C20 直腸	0	0	0	2	10	17	7	4	40
C21 肛門管	0	0	0	0	1	0	0	0	1
C22 肝・肝内胆管	0	0	0	1	4	10	12	2	29
C23 胆のう	0	0	0	2	1	4	12	3	22
C24 胆管	0	0	0	0	1	5	11	2	19
C25 膵臓	0	0	1	4	9	16	18	3	51
C32 喉頭	0	0	0	0	1	2	0	0	3
C34 肺	0	0	2	8	27	39	30	2	108
C38・47-49 軟部組織	0	0	1	0	2	3	3	0	9
C42 造血系	1	0	0	4	2	5	3	0	15
C44 皮膚	0	0	1	4	5	10	10	3	33
C50 乳房	0	1	8	8	19	8	4	2	50
C51 外陰	0	0	0	0	0	1	1	0	2
C53 子宮頸部	5	7	4	0	3	1	1	1	22
C54 子宮内膜	0	0	1	0	3	2	2	0	8
C56 卵巣	0	0	1	1	2	3	4	0	11
C61 前立腺	0	0	0	2	13	42	14	1	72
C62 精巣	1	0	0	1	0	0	0	0	2
C64-66 腎・尿路（膀胱除く）	0	0	0	1	8	4	7	2	22
C67 膀胱	0	0	1	1	9	13	13	4	41
C70 髄膜	0	0	2	0	2	6	0	0	10
C71 脳	0	0	0	1	0	2	0	0	3
C72 脳神経系	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C73-75 甲状腺・その他の内分泌腺	1	1	1	6	2	3	0	0	14
C77 リンパ節	0	0	1	1	2	2	4	0	10
C80 原発不明癌	0	0	1	1	1	3	4	0	10
合 計	9	11	30	76	199	309	243	43	920

性別別登録患者数

(全症例)

部 位	24年男	24年女	24年計	25年男	25年女	25年計	26年男	26年女	26年計
C02-06 口唇・口腔	2	2	4	1	2	3	6	3	9
C07-08 大唾液腺	0	0	0	0	0	0	1	0	1
C09-13 咽頭	1	1	2	1	0	1	1	0	1
C15 食道	15	4	19	12	1	13	20	6	26
C16 胃	127	56	183	108	45	153	87	57	144
C17 小腸	4	2	6	3	2	5	2	2	4
C18-19 結腸	69	52	121	57	45	102	76	55	131
C20 直腸	25	11	36	32	14	46	20	20	40
C21 肛門管	0	0	0	1	0	1	0	1	1
C22 肝・肝内胆管	15	13	28	22	14	36	18	11	29
C23 胆のう	6	9	15	5	10	15	6	16	22
C24 胆管	13	10	23	9	12	21	10	10	20
C25 膵臓	15	23	38	17	25	42	27	24	51
C30-31 鼻腔・副鼻腔	2	1	3	0	0	0	0	0	0
C32 喉頭	2	1	3	0	0	0	3	0	3
C34 肺	80	38	118	80	37	117	82	28	110
C37 胸腺	0	0	0	0	0	0	1	0	1
C38・47-49 軟部組織	0	1	1	1	2	3	4	4	8
C40-41 骨	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C42 造血系	5	5	10	10	6	16	8	7	15
C44 皮膚	17	18	35	12	18	30	13	20	33
C50 乳房	1	56	57	1	50	51	0	51	51
C51 外陰		0	0		2	2		2	2
C53 子宮頸部		18	18		14	14		22	22
C54 子宮内膜		13	13		18	18		8	8
C56 卵巣		12	12		5	5		11	11
C57 卵管		1	1		0	0		0	0
C60 陰茎	0		0	1		1	0		0
C61 前立腺	87		87	77		77	72		72
C62 精巣	2		2	5		5	2		2
C64-66 腎・尿路（膀胱を除く）	10	13	23	10	8	18	15	8	23
C67 膀胱	20	8	28	30	6	36	30	11	41
C70 髄膜	0	3	3	2	7	9	5	6	11
C71 脳	3	3	6	4	2	6	4	0	4
C72 脳神経系	0	0	0	2	0	2	0	0	0
C73-75 甲状腺・その他の内分泌腺	0	12	12	1	11	12	6	8	14
C77 リンパ節	3	5	8	11	4	15	6	4	10
C80 原発不明癌	4	2	6	2	5	7	7	3	10
合 計	528	393	921	517	365	882	532	398	930

来院経路別

(全症例)

来院経路	24年件数 (割合)	25年件数 (割合)	26年件数 (割合)
自主	109 (11.8%)	84 (9.5%)	69 (7.4%)
紹介 他院	627 (68.1%)	643 (72.9%)	643 (69.1%)
紹介 がん検診	66 (7.2%)	41 (4.6%)	47 (5.1%)
紹介 健康診断	0 (0.0%)	2 (0.2%)	1 (0.1%)
紹介 ドック	15 (1.6%)	12 (1.4%)	18 (1.9%)
他疾患経過観察中	96 (10.4%)	93 (10.5%)	121 (13.0%)
その他	8 (0.9%)	7 (0.8%)	31 (3.3%)
合計	921 (100.0%)	882 (100.0%)	930 (100.0%)

発見経緯別

(全症例)

発見経緯	24年件数 (割合)	25年件数 (割合)	26年件数 (割合)
がん検診	169 (18.3%)	145 (16.4%)	138 (14.8%)
ドック・健康診断	47 (5.1%)	50 (5.7%)	67 (7.2%)
他疾患経過観察中	174 (18.9%)	166 (18.8%)	238 (25.6%)
自覚症状・その他	531 (57.7%)	521 (59.1%)	487 (52.4%)
合計	921 (100.0%)	882 (100.0%)	930 (100.0%)

症例区分別

(全症例)

症例区分	24年件数 (割合)	25年件数 (割合)	26年件数 (割合)
診断のみ (他施設へ紹介含む)	101 (11.0%)	75 (8.5%)	42 (4.5%)
自施設診断・自施設治療	661 (71.8%)	645 (73.1%)	729 (78.4%)
他施設診断・自施設治療	134 (14.5%)	131 (14.9%)	147 (15.8%)
他施設にて治療開始後	16 (1.7%)	20 (2.3%)	10 (1.1%)
その他	9 (1.0%)	11 (1.2%)	2 (0.2%)
合計	921 (100.0%)	882 (100.0%)	930 (100.0%)

VII 荘内病院人間ドック・検診検討委員会報告

人間ドック・検診成績表

		受診者(A) (一次検診 受診者数)	要精検者(B) (要精検率) 要精査者/受診者 (B)/(A)	精検受診者中 回報書回収(C) (精検受診率) 回収/要精査者 (C)/(B)	がん以外 その他疾患(D) 疾患/要精査者 (D)/(B)	がん (E)	
						(陽性反応適中度) がん/要精査者 (E)/(B)	(がん発見率) がん/受診者 (E)/(A)
H23ドック	大腸がん検診	1,952	125 6.40%	80 64.00%	42 33.60%	2 1.60%	0.10%
	胃がん検診	1,935	119 6.15%	82 68.91%	42 35.29%	6 5.04%	0.31%
	肺がん検診	1,958	57 2.91%	48 84.21%	22 38.60%	0 0.00%	0.00%
	子宮がん検診	527	8 1.52%	5 62.50%	3 37.50%	1 12.50%	0.19%
	乳がん検診	569	83 14.59%	66 79.52%	15 18.07%	2 2.41%	0.35%
	甲状腺	569	6 1.05%	5 83.33%	4 66.67%	0 0.00%	0.00%
H24ドック	大腸がん検診	1,998	135 6.76%	81 60.00%	35 25.93%	4 2.96%	0.20%
	胃がん検診	1,983	90 4.54%	49 54.44%	24 26.67%	6 6.67%	0.30%
	肺がん検診	1,998	50 2.50%	36 72.00%	11 22.00%	1 2.00%	0.05%
	子宮がん検診	560	10 1.79%	7 70.00%	2 20.00%	0 0.00%	0.00%
	乳がん検診	682	71 10.41%	58 81.69%	8 11.27%	2 2.82%	0.29%
	甲状腺	682	9 1.32%	3 33.33%	1 11.11%	0 0.00%	0.00%
H25ドック	大腸がん検診	1,966	137 6.97%	93 67.88%	34 24.82%	5 3.65%	0.25%
	胃がん検診	1,950	111 5.69%	69 62.16%	43 38.74%	9 8.11%	0.45%
	肺がん検診	1,967	61 3.10%	43 70.49%	25 40.98%	0 0.00%	0.00%
	子宮がん検診	554	11 1.99%	5 45.45%	4 36.36%	1 9.09%	0.18%
	乳がん検診	679	33 4.86%	24 72.73%	8 24.24%	0 0.00%	0.00%
	甲状腺	679	3 0.44%	3 100.00%	3 100.00%	0 0.00%	0.00%
		受診者(A) (一次検診 受診者数)	要精検者(B) (要精検率) 要精査者/受診者 (B)/(A)	精検受診者中 回報書回収(C) (精検受診率) 回収/要精査者 (C)/(B)	がん以外 その他疾患(D) 疾患/要精査者 (D)/(B)	がん (E)	
						(陽性反応適中度) がん/要精査者 (E)/(B)	(がん発見率) がん/受診者 (E)/(A)
H23検診	乳がん検診	180	37 20.56%	33 89.19%	3 8.11%	3 8.11%	1.67%
	甲状腺	180	2 1.11%	2 100.00%	0 0.00%	0 0.00%	0.00%
H24検診	乳がん検診	202	31 15.35%	26 83.87%	5 16.13%	3 3.23%	0.50%
	甲状腺	202	5 2.48%	4 80.00%	1 20.00%	0 0.00%	0.00%
H25検診	乳がん検診	224	18 8.04%	17 94.44%	4 22.22%	2 11.11%	0.89%
	甲状腺	224	6 2.68%	5 83.33%	2 33.33%	0 0.00%	0.00%

VIII 死亡症例検討会

第105回：平成25年1月28日

症例1 83M AN1317
 臨床診断 #大腸癌、肺脳メタ
 症例提示 消化器科 水野 恵 医師
 病理報告 病理科 深瀬 真之 医師

第106回：平成25年3月25日

症例1 58F AN1322
 臨床診断 #CPAOA
 #Ai-CTで脳出血
 #出血傾向？
 #胃癌術後
 #子宮体癌術後
 症例提示 臨床研修医 五十嵐 聖 医師
 指導医 内科 菅 秀紀 医師
 病理報告 病理科 加藤 哲子 医師
 症例2 57M AN1321
 臨床診断 #CPAOA⇒ROSC
 (一次心蘇生のみ達成)
 #Ai-CTで肺炎？
 #CRP33
 症例提示 臨床研修医 五十嵐 聖 医師
 指導医 循環器科 保屋野 真 医師
 内科 菅 秀紀 医師
 病理報告 病理科 加藤 哲子 医師

第107回：平成25年4月22日

症例1 26M AN1323
 臨床診断 #CPAOA
 症例提示 内科 菅 秀紀 医師
 病理報告 病理科 加藤 哲子 医師

第108回：平成25年5月27日

症例1 61M AN1324
 臨床診断 #CPAOA
 #CRF on HD
 #Diabetic kidneys
 症例提示 内科 広瀬絵理子 医師
 病理報告 病理科 加藤 哲子 医師
 症例2 62M AN1316
 臨床診断 #Multiple HCC
 症例提示 消化器科 秋葉昭多郎 医師
 病理報告 病理科 内ヶ崎新也 医師

第109回：平成25年6月24日

症例1 85M AN1320
 臨床診断 #ネフローゼ症候群
 #腎不全
 #急性膵炎
 症例提示 内科 広瀬絵理子 医師
 病理報告 病理科 内ヶ崎新也 医師

第110回：平成25年9月30日

症例1 80M AN1325
 臨床診断 #肺炎
 #慢性腎不全
 症例提示・病理報告
 臨床研修医 須藤 大輔 医師
 指導医 内科 安宅 謙 医師
 病理科 加藤 哲子 医師

2012年 剖検記録要約

剖検番号	年齢	性別	臨床診断[科名]	病 理 診 断
1315	86歳	女性	突然死 [内科]	高安病（大動脈+主要分枝：び漫性増殖型、Ⅲ型） 1. 解離性上行動脈瘤、2. 血性心嚢液・胸水貯留
1316	62歳	男性	肝癌 [消化器科]	肝細胞癌（高分化型）転移：あり 1. 肝硬変症、 2. 黄疸
1317	83歳	男性	上行結腸癌 [消化器科]	二重癌1)上行結腸癌（高分化型腺癌）転移：なし+2) 右肺癌（小細胞癌）転移：あり（臍、副腎、右胸膜など） 1. び漫性肺胞障害、2. 右肺アスペルギールス症
1318	52歳	男性	脳内出血 [脳外科]	脳内出血（左頭頂葉～後頭葉～側脳室～中脳） 1. 脳浮腫
1319	75歳	男性	上行結腸癌 [外科]	上行結腸癌術後（中分化型腺癌）転移あり 1. 播種性 血管内凝固症候群、2. 肺うっ血水腫
1320	85歳	男性	急速進行性腎炎+ 急性膀胱炎[内科]	急性出血性壊死性膀胱炎 1. 半月体性糸球体腎炎、 2. 肺水腫

荘内病院年譜

2013年（平成25年）

2013年

- 1月1日 元旦
- 1月4日 仕事始め 院内激励巡視
鶴岡市永年勤続表彰 25年勤続表彰 8名
鶴岡市名刺交換会 第一ホテル鶴岡にて
- 1月12日 山形県がん診療拠点病院協議会 村山総合庁舎
- 1月17日 鶴岡地区歯科医師会新年会
- 1月18日 鶴岡地区医師会新年会
- 1月19日 鶴岡地区薬剤師会 新年会
- 1月20日 optim パネルディスカッション 市民公開講座 聖路加看護大学 講堂
- 1月21日 山形県がん診療連携推進委員会 ホテルメトロポリタン山形
山形大学広域学生実習締結式 山形大学医学部広域連携臨床実習開始
- 1月25日 荘内病院特別シンポジウム これからのチーム医療を考える
- 1月29日 ネパール医療ボランティア 報告会
- 1月30日 山形県自治体病院協議会 講演会 霞城セントラル
- 2月2日 ELNEC-J看護教育プログラム開催
- 2月5日 稲城市議団 来院
- 2月6日 山形県救急業務高度化推進協議会 県庁
- 2月23日 庄内プロジェクト活動報告会
- 3月2日 荘内看護専門学校卒業式
- 3月11日 災害時食事提供訓練
- 3月14日 山形大学 臨床研修委員会
- 3月16日 鶴岡未来健康調査推進会議 鶴岡市先端産業支援センター
- 3月18日 山形県ドクターヘリ運行協議会
- 3月20日 レジナビ東京
- 3月29日 山形大学蔵王協議会
- 3月31日 退職職員 15名
- 2012年度大学関係 新潟大学 第一外科 若井俊文教授 産婦人科 榎本隆之教授
眼科 福地建郎教授 就任
新潟大学病院長 内山聖先生退官
- 関連する施設 鶴岡病院院長 灘岡壽英先生 退官 山形県立中央病院院長 小田隆晴先生 退官
湯田川温泉リハビリテーション病院 竹田浩洋先生 退職
- 4月1日 辞令交付式
- 新期採用 研修医（管理型）2名 看護師21名 言語聴覚士 1名 事務職1名
転入事務職員6名
- 看護師院外派遣研修 静岡県立がんセンター 2名
昭和大学横浜北部病院 1名
新潟市民病院 1名

- 4月1日 湯田川温泉リハビリテーション病院長 武田憲夫先生 就任
4月9日 鶴岡准看護学院 入学式
4月12日 荘内看護専門学校 入学式
4月13日 月曜会総会 鶴岡市退職者送別会 第一ホテル鶴岡
4月25日 協立病院との連携会議
4月30日 山形大学 泌尿器科教授 富田善彦先生 講演会
5月1日 鶴岡未来健康調査報告会
5月10日 鶴岡病院 連携会議
5月14日 ふれあい看護体験 市内高校生が参加
東日本大震災救援感謝状伝達式 県庁
5月31日 自治体病院協議会 総会 酒田リッチアンドガーデン
6月5日 湯田川温泉リハビリテーション病院 連携会議
6月6日 鶴岡准看護学院講師懇談会 第一ホテル鶴岡
6月12日 医療安全講演会 新潟大学医学部長 高橋姿先生
6月25日 NICU、GCU増築工事開始
6月27日 鶴岡市立荘内病院創立記念日 創立100周年記念祝賀会 東京第一ホテル鶴岡
表彰者 10年勤続医師 歯科口腔外科 本間克彦先生
20年勤続感謝状贈呈 20名
7月1日 勤務医と医師会員懇談会 第一ホテル鶴岡
7月4日 新潟大学公衆衛生学教授 中村 先生 来院 村上コホート研究調査
7月5日 QOD研究会開催
7月8日 鶴岡地区救急医療対策協議会
7月10日 山形県病院協議会
7月12日 山形県防災ヘリコプター訓練
7月16日 山形県自治体病院開設者との懇談会
7月20日 山形県医療マネジメント学会
7月25日 公立病院連盟 東北支部総会 米沢白布高湯 2015年当院にて開催決定
7月17日 レジナビフェア 東京ビッグサイト 当院ブースに63名の医学生訪れる
7月17日 看護学生に対する病院案内、説明会 当院講堂36名参加
7月27日 小学生対象の夏休み自由研究参加
7月28日 ピンクリボン山形 プレフェスタ鶴岡 第3学区コミュニティーセンター
7月31日 第3回 荘内病院open hospital
8月1日 山形県病院協議会 県医師会との懇談会
8月29日 自治体病院協議会 東北地方会議 仙台江陽グランドホテル
9月1日 山形県防災訓練 小真木原運動公園
9月6日 山形県病院協議会総会 ホテルキャッスル
25年勤続表彰 6名
9月10日 石川県 緩和医療視察 来院
9月15日 荘内看護専門学校 看学祭
9月21日 東北がんネットワーク
9月27日 山形大学解剖慰霊祭
新潟大学医学部学生会 荘内支部総会
9月28日 山形県緩和医療研究会 にこふる 講堂

- 9月29日 荘内病院OB会
- 10月1日 鶴岡市新市制8周年記念祝賀会
- 10月3日 院内緩和医療講演会 蘆野先生
- 10月4日 鶴岡准看護学院 実習開始式
- 10月5日 山形DPCセミナー 山形市立病院済生館
- 10月19日 山形防災訓練DMAT参加
- 11月1日 山形病院協議会 病院長会議
- 11月8日 荘内病院防災訓練
- 11月14日 鶴岡准看護学院 戴帽式
- 11月15日 荘内看護専門学校 継灯式
- 11月16日 庄内プロジェクト 市民公開講座 中央公民館にて
- 11月21日 地域医療再生フォーラム
- 11月22日 山形県自治体病院協議会理事会 済生館
- 11月23日 山形医療安全フォーラム
- 11月24日 荘内病院創立100周年記念祝賀会 東京第一ホテル鶴岡
- 11月25日 山形大学医学部創立40周年記念祝賀会 パレスグランデール山形
- 11月29日 新潟大学医学部関連病院長会議 講演会
- 12月2日 山形県ドクターヘリ調整委員会 山形自治会館
荘内病院中長期運営計画評価委員会
- 12月17日 地域医療連携推進協議会 東京第一ホテル鶴岡
- 12月18日 五者懇談会

鶴岡市立市立病院医学雑誌について

名称	鶴岡市立市立病院医学雑誌	編集委員 委員長	正岡 俊明
略名	鶴岡市立病院医誌	副委員長	二瓶 幸栄
欧文名称	The Medical Journal of Tsuruoka Municipal Shonai Hospital	委員	古屋 紀彦 高柳 健史 和泉 典子 草島 宏平
欧文略称	Med.J.Shonai Hospital		鈴木 郁 奥井 麻里
発行者	三科 武		丸山 美都 阿部 奈美
発行所	鶴岡市泉町4番20号 鶴岡市立市立病院	発行部数	500部
		発行回数	毎年1回

鶴岡市立市立病院医学雑誌投稿規定 (第25巻より)

本誌の内容および投稿資格について

1 本誌に掲載する論文は、鶴岡市立市立病院の職員及びその関係者の投稿による。

以前当院の職員であった場合の投稿については、当院で経験された症例であり、他誌への掲載がない場合のみ投稿を許可する。

2 本誌は、医学に関する症例研究、学術研究、綜説、症例報告、集談会記録、この他病院活動、病院統計、病院管理運営に関する記録も収録する。

3 原著、綜説は未発表のものに限る。

4 他雑誌に全文収載された論文については、著書名、標題名、収載雑誌名、巻、号、ページ、年を記録し、抄録を載せる。

5 学会・集会等において、これらの記録誌に抄録のみ収載されたものについては、講演原稿あるいはこれを改稿して論文の体裁を整えたものあるいは抄録を収録して、発表した学会・集会名、発表年月日を併記する。

なお、4、5については、各部門の業績として責任者が一括して(様式は、別に定める)図書室司書に提出する。

6 論文は査読を行い、採否、掲載順序は編集委員会が決定する。

論文の構成と書き方

7 原稿の形式は、標題、氏名(所属)、400字程度の要約、Key words(5個以内)、本文、文

献、写真、図表とする。

8 原稿は、原則として20字×20行とし、邦文、横書き、平かな、当用漢字(専門用語は使用してよい)、現代かなづかいを用いる。

原稿用紙は、20字×20行であれば、市販の用紙でもかまわない。

ワープロを使用する場合は、20字×20行詰原稿とする。

9 本文の長さは、原著24枚、症例20枚程度を標準とする。(図表を除く)

10 論文には英文タイトルおよびローマ字による著者名を併記する。

11 外国語の固有名詞は、原語のまま用いる。ただし、日本語化しているものは片かなとする。薬品名は、商品名を用いず、正式名を用いる。

12 度量衡は、C.G.S.単位とし、算用数字を用いる。ただし、専門的な分野については考慮する。

図・表・写真について

13 図表は、原稿本文とは別の用紙に黒インクで書き、表題や説明をつける。

14 写真等は、原則として白黒とし、挿入個所は原稿用紙の欄外に朱書きする。

15 カラー写真は、原則として認めないが、編集委員会で認めたものについては、カラー印刷とする。

文献について

16 文献は、出現順に番号を文章の右肩に附し、本文の終わりにまとめて記載する。

外国雑誌は Index Medicus、邦文雑誌は医学中央雑誌収載誌目録による略語を使用する。著者は、初出の2名までとし、以下は邦文では他、欧文では et alと記載する。標題名は完全に記載する。

[原著の場合]

著者名：論文題名. 雑誌名 巻(号)：頁～頁, 西暦年号

例：

1) 邦文誌

宮田清典, 高田 治, 他：グルカゴンーインスリン療法にて減黄効果を得た胆汁うっ滞性黄疸の1例. 最新医学 44(3):632-638,1989

2) 欧文誌

McMahon BJ, Helminiak C, et al: Frequency of adverse reactions to hepatitis B vaccine in 43,618 persons. Am J Med 92:254-256,1992

[著書(単行本)の場合]

著者名：題名. 監修者名(編者名), 書名, 版, 頁～頁, 出版社, 出版地,

西暦年号

例：

1) 和書

内野治人, 他：前白血病. 中尾喜久監修, 白血病のすべて, 2版, p38-45, 南江堂, 東京, 1981

2) 洋書

Gardnar MB: Oncogenes and acute leukemia. Stass SA(ed), The Acute Leukemias, p327-359, Marcel Dekker, New York, 1987

その他

17 原稿申込は年中受け付けるものとするが、2月末日までに提出されたものは、最新号への掲載とする。原稿受付は編集委員会が行い、その受付代表を図書室司書とする。

18 校正は、原則として著者が行う。

19 別刷は、20部まで病院の負担で行う。それ以

上は、実費を著者の負担とする。(校正時に別刷の部数を指定すること)

20 本誌に掲載された論文の著作権は、荘内病院に帰属するものとし、出版権・複製権・公衆送信権の利用について許諾するものとする。

(平成11年4月1日 改正)

(平成20年4月1日 改正)

(平成25年12月1日 改正)

(平成26年12月1日 改正)

【学術活動業績の書き方】

－他誌に論文を掲載した場合－

論文タイトル

鶴岡市立荘内病院所属科

著者名

掲載した雑誌名 巻(号)：頁～頁, 西暦

要 約(必要な場合)

－学会に発表した場合－

論文タイトル

鶴岡市立荘内病院所属科

発表者

第〇回

学会名 (発表した日付 西暦年 月 日)

抄 録(必要な場合)

－院外で講演を行なった場合－

講演タイトル

鶴岡市立荘内病院所属科 講演者

講演会名 (講演会日 西暦年 月 日)

－院内での各種研修会を行なった場合－

各部署ごとにまとめて、前巻にならって提出して下さい。

上記の様式で書き、各部門の責任者がまとめてから提出してください。

荘内病院医学雑誌編集委員会要綱

(目 的)

第1条 この要綱は荘内病院医学雑誌を編集するために設置する編集委員会（以下「委員会」という）について必要な事項を定めることを目的とする。

(所 轄 事 項)

第2条 委員会は、病院が発行する医学雑誌の編集および関係機関への配布を所轄する。この医学雑誌はとりあえず年1回発行し、将来は複数回発行を目指すものとする。

(組 織)

第3条 委員会は委員長1名、副委員長1名および若干名の委員より構成される。

- 委員は病院職員のなかから院長が委嘱する。
- 委員長および副委員長は委員の互選により決定する。
- 委員の任期は2年とし、欠員が生じた場合の任期は、前任者の残任期間とする。任期終了後、再度委嘱されることを妨げない。
- 次期委員の推薦は、編集委員の任期終了前に、病院管理者と委員との合同会議で行なうものとし、被推薦者の同意を得るものとする。

(顧 問)

第4条 委員会の円滑な運営を図るため、次の顧問を置く。

- (1) 副院長
- (2) 診療部長
- (3) 事務部長
- (4) 看護部長
- (5) 教育研究研修委員長及び副委員長

(支 援 組 織)

第5条 委員会において困難な問題が生じ、他の

病院職員の支援を必要とするような場合は、医長会議および科長会議に諮るものとする。これらの機関はしかるべき援助をしなければならない。

(会 議)

第6条 委員長は必要に応じて委員会を召集し会議を主催する。

- 2 副委員長は委員長を補佐し、委員長が不在のときはその職務を代行する。
- 3 委員会は必要に応じ、上記以外の職員または知識経験者の出席を求めて意見を聞くことができる。

(投 稿 等)

第7条 職員は病院の使命を果たすために必要な研讃に努めるとともに、委員会の業務に協力するものとする。

- 2 投稿規定は別に定める。

(庶 務)

第8条 委員会の庶務は事務部において処理する。

付 則

この要綱は、1989年6月より適用する。

この要綱は、2001年10月1日に改定、施行する。

この要綱は、2003年7月1日に改定、施行する。

編 集 後 記

難産でしたが当院医学雑誌第25巻がやっと発刊できることとなりました。今年度は学術論文7編の投稿をいただきました。職種の内訳は診療科（医師）1、看護部（看護師）1、チーム医療（看護師）1、薬局（薬剤師）1、病理科（技師）2、心療科（心理士）1で、日常診療の各分野でそれぞれの視点より現状報告、問題分析、症例報告などしていただいております。皆様、是非ご一読下さい。内容はよくわからなくとも他分野他職種の日常診療における息遣いや苦労を少し感じ取ることができるのではないのでしょうか？ 皆がそれぞれの持ち場で頑張っていることを確認し「自分も負けてはおられない」、と意欲を向上させる助けとなる医学雑誌であればいいと思います。たくさんの投稿をお願いいたします。

今年の特集は三科院長の発案で「当院の周産期医療の歩みと今後の展望」です。5名の方に執筆をお願いしましたが、お忙しいにもかかわらず快くお引き受けいただきました。厚く御礼申し上げます。庄内のみならず山形県内をリードする当院の周産期医療の生い立ち、現況、今後について良く知ることができます。当院職員の皆様は必読です。

最後に、本年度本誌編集委員の皆様と事務局の阿部奈美委員、丸山美都委員に厚くお礼申し上げます。

正 岡 俊 明

鶴岡市立荘内病院医学雑誌

第 25 卷

2015年 3月3日印刷
2015年 3月19日発行
発行者 三 科 武
編集者 鶴岡市立荘内病院医学雑誌編集委員会
発行所 鶴岡市立病院内
鶴岡市立荘内病院医学雑誌編集委員会
〒997 - 8515 鶴岡市泉町4番20号
電 話 0235 (26) 5111
F A X 0235 (26) 5110
URL = <http://www.shonai-hos.jp>
e-mail : tosyo@shonai-hos.jp

印刷人 黒 井 徳 夫
印刷所 J A 印 刷 山 形
〒997-0004
鶴岡市本田字八百地275番地
電 話 0235 (24) 0690
FAX 0235 (24) 0637